

付 天津海関接收問題

上海、南京、天津、奉天ニ轉電セリ

596 昭和5年4月5日 在中国矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛(電報)

天津税関の接收もあり得るとの朱外交處長など
の談話について

北平 4月5日後発
本省 4月5日後着

第二五九號

往電第二五八號末段ノ點ニ關シ

河北財政廳長李鴻文ハ三日本官ト雜談中稅關接收モ考慮中ナルヤノ口吻ヲ洩シ他方新外交署長朱鶴翔ハ四日他用ヲ以テ同人ヲ訪問セル大橋ニ對シ自ラ本件ニ言及シ右接收ハ未タ實行シ居ラサルモ實行ノ場合ニハ内外借款支拂ニ振當テノ部分ト增收ニ依リ支那政府ノ收入トナル部分トハ之ヲ區部シ前者ニハ一切手ヲ觸レサルコト豫想スト語レル由ナルカ他方四月三日英國公使館ノ一員ハ一邦人記者ニ對シ右ノ如キ事態將來發生スルヤモ計ラレサルモ右ハ從來ノ内亂ノ場合ニ顧ミ或ハ已ムヲ得サルヘキカト述ヘタル趣ナリ何

等御参考迄

597 昭和5年5月1日 在中国矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛(電報)

閻錫山による天津海關付加税差押え命令に
する各國公使との会談について

北平 5月1日後発
本省 5月1日後着

第三一九號

往電第二五九號及天津發閻下宛電報第一二〇號ニ關シ三十日ノ京津「タイムス」ハ社説ニ於テ廿九日閻錫山ハ天津當局ニ對シ天津稅關收入中從前ノ五分稅以外ハ追テ通知スル迄總テ之ヲ留置方電命スルト共ニ交通銀行ニモ右命令執行方通知セシメタル由ナルカ閻ハ國際關係ヲ慮リ差當り外債及賠償振當ノ部分ヲ除キタル關稅收入ノ南京送附ヲ差押ヘ交通銀行ニ留置シ軍費ニ充當スルモノナルヘキ處稅關側ハ閻ノ命令ニ服從スルノ外ナカルヘク列強ハ支那ノ關稅自主權ヲ承認シタル此ノ際之ニ干渉スルコトアルヤ否ヤ確

カナラス結局從來ノ例ニ顧ミ關稅制度崩壊ノ第一歩タルヤノ感アリ云々ト述ヘタリ又一日ノ「リーダー」ハ五月一日ヨリ北方勢力下ノ關稅及鹽稅收入ハ右ノ通接收セラルヘク右ハ支那各地ニ對シ閻カ新政府ヲ樹立セントシツアリトノ決定的印象ヲ與フヘシト報道シ居レリ

右ニ關シ當地正金草刈ノ來談ニ依レハ當地借款團日英米佛側代表者ハ閻ノ斯カル處置ヲ阻止スル様各自國公使館ニ申出方三十日相談セル趣ナルニ付本官ハ一日佛國公使及英國代理公使ヲ訪問シタル處佛國公使ハ同國天津領事ヨリ閻ハ廿八日天津ノ海關官憲ニ對シ從來ノ五分稅以外ノ收入ハ總テ之ヲ留置スヘク若シ同官憲ニ於テ此ノ命令ヲ實行シ得サル場合ハ塘沽ニ於テ徵稅ヲ開始スヘキ旨電命セル由報告ニ接シタリト語リ次テ銀行側ヨリ申出テアリタル場合ノ措置

上海、南京、天津、奉天へ轉電セリ

598 昭和5年5月2日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

閻による天津海關付加税差押えに対し南京側として同海關閉鎖の腹案もあるとの宋財政部

長の内話について

上海 5月2日後発
本省 5月2日後着

付テハ未タ各自國銀行關係者ト何等相談シタルコトナキモ
差當リノ考ヘトシテハ各國力支那ノ關稅自主ヲ認メタル今

付テハ未タ各自國銀行關係者ト何等相談シタルコトナキモ
差當リノ考ヘトシテハ各國力支那ノ關稅自主ヲ認メタル今

三、何レニスルモ銀行側トシテハ鹽稅確保ニ關スル過去ノ

五分ノ收入丈ニテハ外債ニ對スル「サービス」サヘ全フシ難キ有様ニテ況ヤ將來ニ於ケル債務整理ノ如キハ到底見込モ立チ難キ次第ナルカ右ニ對スル日本側ノ御考如何ト述ヘタリ依テ本官ハ闇カ差押ヘ方ヲ命令セルハ天津海關ノミナルヘキ力同海關ノ收入ハ全國關稅收入ノ何割位ニ相當スヘキヤト尋ネタル處宋ハ天津海關ノミノ收入ナレハ全國收入ノ一割位ニ過キサルモ唯前回モ申上ケタル通り自分ノ恐れル處ハ闇ニシテ右様ノ措置ニ出テンカ他ノ地方ニテモ之ニ習フモノ出ツヘクスケテハ海關ハ鹽稅制度ノ現狀ト選フ處ナキニ至リ支那ノ財政的基礎ハ全然破壊セラレ支那ノ不信用ハ收拾スルニ由ナキニ至ルヘキコトナリ即チ自分ハ本件カ支那ノ基礎的動搖ヲ招來スル危險性ヲ含メルモノトシテ憂慮措ク能ハサル次第ナリト繰返シ述ヘタルニ付

⁽²⁾ 本官ハ本件力支那及外國側双方ニ取り極メテ重大ナル問題ナルコトハ前回モ御話シタル通ニテ吾人ハ強キ態度ヲ以テ飽迄海關制度ノ擁護ニ努ムルコトヲ要スト思考ス尤右擁護ノ方法如何ハ別途慎重ナル考慮ヲ要スヘク例ヘハ列國側ヨリ天津方面ニ軍艦ヲ派遣スルカ如キコトアラムカ北方ノミナラス國民黨側ニテモ騒キ立テルコトトナラムト應酬シ尙ニハ右御含ノ上可然御措置アリタシ

尚上海來電公第四三二号後段宋部長ノ言ニ依レハ已ムヲ得サル場合ニハ外國銀行ニ預入ル様天津海關ニ命令シ置キタル由ナルニ付若シ同海關ニ於テ右訓令ニ基キ五分正稅ハ勿論附加稅ヲモ外國銀行ニ預入ルルトセハ闇ノ希望ニ應スルト否トハ一二外國銀行並關係國側ノ決心如何ニ依リ決スヘキ義ト思考セラル

上海、南京、天津、奉天ニ轉電セリ

~~~~~

600 昭和5年5月3日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津海關付加稅差押えおよびこれに対する天津港閉鎖の断念を南北双方へ説示方意見具申

上海市 5月3日後発  
本省 5月3日後着

本官ヨリ天津海關ハ租界内ニアル故稅關吏カ中央政府ニ忠實ナラハ闇側ニ於テ附加稅收入ヲ持出スコトハ實際上不可能ナル譯ニアラスヤト述ヘタルニ宋ハ稅關吏ノ忠實ナルコトハ確力ナルモ唯支那銀行ハ心許無キ節アルニ付已ムヲ得サル場合ニハ外國銀行ニ關稅收入ヲ預ケ入ルル様天津海關ニ命令シ置キタリ尙最終ノ場合ニハ同海關ヲ閉鎖スル腹案モ持チ居レリト内話セリ

（別電公第四三一號遲發）

599 昭和5年5月3日 币原外務大臣より  
在中国矢野公使館書記官宛（電報）

天津海關付加稅差押えの対処につき海關制度  
現狀維持の立場より關係國と協議方訓令

本省 5月3日後8時発

第八八號

貴電第三一九号ニ閲シ

我方トシテハ海關制度ノ維持ヲ重要視スルノミナラス債務整理ノ目的ヲ達スル上ヨリ言フモ關稅收入ヲ地方軍閥ノ干涉外ニ置クコトハ極メテ望マシキ所ニシテ從テ本件干渉ニ訴フルコトナキヲ保セサル次第ナル處斯ノ如クソハ支那ノ内亂ハ再ヒ深刻化シ又支那ノ信用ハ愈低下シ最近折角軌道ニ戻ラントシツツアル債務整理問題ノ如キモ再ヒ望ミナキニ至ルヘキノミナラス一面「ブロッケード」等ノ結果本邦船舶ニ對スル干涉其ノ他我方條約上ノ權利ニ對スル種々ナル障害ヲ惹起スヘク尙北支方面通商上ノ影響モ甚大ナルヘシト認メラレ旁我方トシテハ此ノ際形勢ノ急轉直下ヲ見サル前早キニ及シテ北方ヲシテ差押ヲ思止マラシムルト共ニ南京側ニ於テ極端手段ニ出テシメサル様適當措置スルコト然ルヘント思考セラル

就テハ本官ノ南京側ニ對スル勸說ト相應シ北平及天津ニ於テモ北方當局ニ對シ差押ノ内外ニ及ホス影響ノ極メテ重大ナルコト並ニ差押ヲ強行スルトスルモ南京側ニ於テ「ブロッケード」等ノ如キ極端ナル手段ヲ以テ之ニ報ユル時ハ其

ノ實效ヲ收メ難キノミナラス北方側ハ全ク海港ヲ塞サカル  
ル羽目ニ陷ル惧アリ却テ不利ナルヘキコト等然ルヘク説示  
シ差押ヲ斷念スル様勧告方適當ト存ス  
前電ノ通轉電セリ

601 昭和5年5月3日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛（電報）

閻による天津海關付加税差押えに抗議方外國

銀行代表者より各国公使への請願書について

北平 5月3日後発  
本省 5月3日後着

第三三〇號

往電第三一九號ニ關シ

二日當地團體銀行代表者會合ノ上三日附ヲ以テ各自國公使  
ニ提出方決定セル本件請願書ノ概要左ノ通

閻錫山ハ天津關稅收入中五分正稅ヲ超過スル部分ハ追テ命  
令アル迄之ヲ抑留スヘキ旨地方代表ニ訓令セルコト明白ト  
ナリタル處閻ニ於テハ外債或ハ賠償當ノ部分ハ手ヲ付ク  
ル意思ナキ旨ヲ公ニシ居ルモ團體代表者ハ山西派カスノ如

キ舉ニ出ツルハ對外債務ニ關シ海關行政ノ有スル責任ヲ充  
分理解シ居ラサルモノト認メ茲ニ今ヤ天津ニ於テ作ラレタ  
ル先例ノ外債所持者ノ利益ニ對スル危險ヲ切言セムトス  
本年中ニ關稅收入中ヨリ外債ニ振當テラルヘキ金額ハ七百  
萬磅（現在ノ爲替相場ニテハ約一億銀弗）ヲ超ユル處釐金  
廢止ノ結果湖廣及津浦鐵道借款ニ對スル支拂ノ爲來ル十月  
十日ヨリハ右振當金額自然ニ增加スヘク旁若シ閻ノ措置ニ  
シテ他地方ニ波及スルニ於テハ五分正稅ノ收入ノミニテ之  
力支拂ニ充分ナリトハ言ヒ難ク又右ノ外ニモ關餘引當ノ重  
要ナル外債ノ存スルコトニ留意セサルヘカラス（此ノ點日  
本側ヨリ特ニ挿入方主張セルモノナル由）右様ノ次第二テ  
閣下ハ各國公使ト共ニ海關收入ノ正規徵收及之力預入ニ對  
スル干渉カ外國ノ正當ナル利益ニ多大ノ危険ヲ及ホスヘキ  
點ニ付責任當局者ノ注意ヲ喚起スルノ機宜ニ適スヘキコト  
ヲ感知セラルヘシ

尙同文ノ書翰ハ英米佛團體代表者ヨリモ各自國公使館ニ提  
出ノ筈云々

尙一日米國代理公使「パーキンス」ハ本官ヲ來訪シ本件ハ  
重大ナル問題ニ付關係國ニ於テ慎重考慮ノ必要アリヤニ思  
ト見受ケラレタリ

上海、南京、奉天、天津へ轉電シ青島、濟南、張家口へ暗  
送セリ

602 昭和5年5月5日 在天津田尻總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

税關よりの銀行引揚げに伴い税關長自ら事務

を行う旨の税務司談話について

天津 5月5日後発  
本省 5月6日前着

第一四五號

五日稅務司ノ本官ニ語ル處ニ依レハ三日稅務司ヨリ關稅保  
管銀行タル交通銀行ニ對シ同日午后四時半迄ニ一切ノ保管  
金ヲ手渡サレ度キ旨要求シタルモ銀行側ハ閻錫山ヨリノ命  
令ノ關係上勿論之ニ應セス且稅關構内ノ出張所ヲ引揚ケタ  
ルヲ以テ五日ヨリ稅（關）長自ラ徵稅事務ヲ取計フコトト  
ナレリ從テ今（後）ノ收入ハ上海ニ送金スル積リナリ銀行  
ニ保管中ノ稅收ハ山西側ニ送金セラレタル形跡ナシトノコ  
トナリ尙右手配ハ總稅務司ノ訓令ニ依ル旨明言スルコトヲ

貴電ハ第四四二号ニ關シ

諸般ノ情況ニ鑑ミルニ閻ニ於テ租界内ニ在ル海關ニ對シ強  
制差押ノ措置ニ出テ若ハ塘沽等ニ於テ徵稅ヲ開始スルカ如  
キコト（北平來電第三一九号二参照）ヲ敢テシ得ルヤ疑ハ  
シキト同時ニ南京側ニ於テモ天津海關撤廃又ハ同港封鎖ト  
云フ力如キ『非常手段ニ出テ列國側トノ關係ニ重大ナル紛  
糾ヲ來スヲ辭セサル程ノ覺悟アリヤ否ヤ疑ハシキコト貴電  
公第四四一号應酬ノ通ニテ目下ノ處双方共列國側ノ支持ヲ  
求メントスル懸引ヲ為シ居ルモノトモ認メラレソ<sup>マジ</sup>從テ此ノ

際列国側殊ニ我方ニ於テ採ルヘキ態度方法ニ関シテハ十分慎重ナルヲ要スルモノアルニ付差当リ北平宛電報第八八号ノ通訓令シ置キタル次第ナルカ』天津來電第一四五号ニ依レハ今ヤ税関自ラ徵稅事務ヲ取計フコトトナリタル趣ナル。右ハ先例モアル由ニテ左シテ面倒ヲ伴フモノト認メラレサルノミナラス将来税関自ラ徵稅事務ヲ取扱フコトヲ困難トスル事情生スルニ於テハ貴電公第四三二号宋部長談ノ如ク外国銀行ヲシテ之ニ當ラシムルコトモ可能ナルヘク而シテ右ハ列国側ニ取り却リテ好都合ナル事態ヲ展開スルモノト思考サレサルニモアラサルニ就テハ貴官ハ右御含ノ上可然支那側ト應酬セラル様致度。

南京へ轉電アリタシ  
北平、天津、奉天ニ轉電セリ

~~~~~

604 昭和5年5月7日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）

閻の關稅差押え命令不遵奉の場合稅關長を免職する旨朱外交處長の言明について

上・海 5月8日後発
本 省 5月9日前着

公第四七二號

七日南京ニ於テ宋子文ニ會見ノ際宋ハ天津ノ海關差押問題ニ言及シ自分ハ總テノ關稅ヲ海關ニ於テ徵收シ之ヲ直ニ上海ニ送付スル様命令シ置キタル處本日天津地方ノ衛戍司令ハ同地稅務司ニ對シ附加稅ノ差押ニ應セサル理由ヲ詰問シ且若シ之ニ應セサレハ直ニ稅務司ノ任命替ヲ爲スヘキ旨ヲ通告シ來リ右ニ對シ稅務司ハ自分ハ總稅務司ノ命令ニ依リ行動シ居ルモノニシテ關稅ヲ強力ヲ以テ差押ヘラルレハ已ムヲ得サルモ夫レ迄ハ命令ニ從フ外ナシトノ旨ヲ答ヘタル趣ナル力事態ハ相當急迫シ居レリ然ルニ若シ天津ノ海關ヲ北方ニテ左右スルコトトナラハ海關制度ノ維持困難トナルノミナラス債務整理ノ如キ大事業モ實行ノ見込ナクナルコトハ度々申上ケタル通ニテ自分トシテハ支那ノ財政的基礎タル海關制度ノ維持ニ飽迄努力シ度キ意嚮ナルハ御承知ノ通ナリト繰返シタル上本問題ニ對スル日本側ノ意嚮如何ヲ尋ネタルニ付

本官ハ廣東政府ニ於テハ先年關稅附加稅ノ徵收ヲ實行シタ

北 平 5月7日後發 本 省 5月8日前着

第三三一號 往電第三一九號ニ關シ

五日朱鶴翔ハ館員ニ對シ閻錫山ノ天津關稅差押ハ元々關稅ヲ南方ニ送ラレ蔣ノ爲軍費ニ流用セラルルヲ虞レタルカ爲ニシテ閻トンテハ正稅五分ハ勿論附加稅ト雖之ヲ軍費ニ使用シ自ラ對外信用ヲ傷付クルカ如キコトハアリ得サル處既ニ右命令ヲ發シタル以上萬一稅關長カ之ヲ違奉セサル場合ニハ直ニ之ヲ免職シ之力後任ニハ北方ニ於ケル各地稅關長中ヨリ適當者ヲ選任スル筈ナリト語リタル趣ナリ

上海、南京、天津、奉天、漢口、廣東、青島、濟南へ轉電セリ

~~~~~

605 昭和5年5月8日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

山西側による天津稅務司罷免への対応などに  
関し宋財政部長との会談要旨報告

於テ重大ナル故障アルヘキカト問ヒタルニ付

大臣宛第四〇五号

王外交部長の覚書

南京 発

本省 5月13日前着

第四〇四號（至急）

本官ハ南京政府ニ於テ北方側ニ對抗シ充分海關ヲ督勵シ強硬ナル態度ヲ示スニ於テハ北方ノ關稅差押モ或ハ沙汰止トナルヤモ知レス何ニスルモ事實上天津ノ貿易ヲ全然停止セシムル力如キ事ハ外國ニ對スル關係ハ勿論支那内部ニ於ケル關係モ非常ニ複雜化スルコトトナルヘキニ付極メテ慎重ニ考慮セラル事然ルヘシト答へ置ケリ

本官ノ印象ニ依レハ南京政府ニ於テハ天津港封鎖ヲ相當眞面目ニ考ヘ居ル様ナルニ付右ニ對スル日本ノ態度モ遲滯無ク攻究シ置ク必要アルヘシト存セラル尙本問題ニ對スル英米公使ノ態度ハ大體放任スルノ外無カルヘシト語フニ歸着シ居ル事ハ既ニ電報セル通ナリ

北平、奉天、天津、青島、漢口、廣東、南京ヘ轉電セリ

606 昭和5年5月13日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

沈鴻烈司令に天津行船舶臨検を命じたひの件

外交部長の覺書手交にひこ

別 電 五月十二日着在南京上村領事より幣原外務

（別 電）

Nanking,

Rec'd. May, 12th p.m. 1930.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 405(Urgent, Betuden)

The National Government of the Republic of China  
for the purpose of localizing the present rebellion of

the Northern Militarists has instructed Commander  
Shen Hung-Lieh (沈鴻烈司令) to proceed to Tsingtao  
and despatch Government vessels with orders to stop

and search all vessels proceeding to or leaving the Port  
of Tientsin. In the event that arms and/or munitions

of any kind whatever, for which no Huchao has been  
issued by the competent authorities of the National  
Government, are found upon such vessels, all such  
illegally transported arms and/or munitions shall be  
treated as contraband and subjected to confiscation  
while the vessel conveying the contraband will be dealt  
with in accordance with law.

上海、北平、天津、青島ヘ轉電セリ

uemura.

~~~~~

ハハアソノ總司令部顧問を天津海關稅務司

兼任せしめ此の訓令布告にひこ

別 電

六月十六日發在天津田尻總領事代理より幣

原外務大臣宛第二一一號

閻の訓令大要

天津 6月16日後発

本省 6月16日後着

第二一一號（至急）

往電第一八九號（關）

最近葛海關監督及財政特派員蘇体仁（十一日北平ヨリ歸津
セル）等ニ於テ面會ヲ避クル傾アリ當地關稅抑留問題ニ關
スル山西側ノ出方ニ付注意中ナリシ處本十六日午前十時頃
警備司令、海關監督及市長ノ名義ヲ以テ別電第二一二號ノ
如キ閻錫山ノ訓令ヲ布告シ同時ニ稅關二人ヲ派シ事務ノ接
收ヲ開始シタルヲ以テ稅關ハ混雜ヲ來シ一般事務全ク滯頓
セル爲目下輸出入何レトモ停止ノ狀況ニアリ稅務司ハ英國
總領事館ニアリ何等協議中ノ由ナルカ副稅務司以下ハ尙稅
關ニ止マリ居レリ不取敢（正午）

(別電)

天津第二二一號閻錫山ヨリ海關監督等ニ對スル訓令ノ大要
往電第二二一號閻錫山ヨリ海關監督等ニ對スル訓令ノ大要
左ノ通

本總司令ハ既ニ六月十二日本總司令部顧問「シンプソン」
ヲ天津海關稅務司ニ兼任セシメタリ同稅務司ノ事務接收後

ニ於テ債務ノ擔保トナルヘキ部分ノ關稅收入ハ舊案ニ照シ
テ妥當且慎重ニ賦還スヘシ又一切ノ稅收ノ收支ハ從來指定
セル銀行ヲ以テ取扱ハシムヘシ尙稅關吏ニ對シテハ舊來通
給料ヲ支給ス各稅關吏トモ業務ニ服サシメ各個ノ利益ハ充
分之ヲ保障スヘシ若シ本命令ニ從ハサル時ハ即時革職シテ
毫モ假借スヘカラス云々

前電ノ通轉電セリ

昭和5年6月17日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛(電報)
天津海關問題に対するこれまでの英國側態度
および各國領事館による付加稅供託案につき

英國公使より内話について
北平 6月17日前発
本省 6月18日後着

天津 6月16日後発
本省 6月16日後着

往電第二二一號閻錫山ヨリ海關監督等ニ對スル訓令ノ大要
左ノ通

往電第四三六號ニ關シ
第437號

十七日英國公使ノ内話左ノ通

一、天津海關問題擡頭スルヤ自分ハ事ノ重大性ニ鑑ミ一方
山西側ヲ「ジスカレジ」スルト共ニ南北双方ヲ満足セ
シムル様ノ方法ニ付種種考慮ヲ加ヘタルカ其ノ後山西
側ニ於テ頻リニ喧シク言ヒ來レルニ付五月中

(イ)外債償還ニ要スル稅收(五分稅ニ非ラス)ハ全部上
海ニ送金スルコト

(ロ)其ノ他ノ稅收ハ海關監督及稅關長ノ共同名義ニテ外
國銀行ニ預金スルコト
ノ一方案ヲ案出シテ之ヲ朱鶴翔ニ話シ朱ヨリ閻ニ電報

セル處閣ヨリ右ニ異議ナキ旨回電アリ然ルニ南方ニ對
シテハ「イングラム」ヲシテ二回ニ亘リ宋子文ニ右ノ
案ヲ承引スル様嚴重勸告セシメタルニ拘ラス宋ハ之ヲ
拒絕セルニ付自分ハ六月初再ヒ「イ」ヲシテ南京側ニ
對シ斯ノ如キ懲當ナル妥協案ニ贊成セサルハ取ラサル
處ニシテ其ノ結果カ如何ニ困難ナル立場ニ陥ルモ外國
側少クトモ英國側ヨリハ何等ノ援助ヲ期待シ得ヘカラ
サルヘントテ嚴重戒告ヲ與ヘシメタリ之ト同時ニ自分
ハ直ニ本國政府ニ右措置ノ經緯及意見ヲ上申セル處六
月四日本國政府ヨリ

山西側ノ贊成セル本案ハ至極適切ナリ依テ貴官ハ此ノ
上共南京側ヲシテ本案ヲ承引セシムル様努力セラレタ
ク南京側ハ本件解決ニ當リ外國ノ援助ヲ期待シ右ニ依
リ外國ヲ支那ノ内争ニ引入レ置キ事態惡化ノ場合ニハ
シテハ稅收ニ依リ保障セラル債權者ノ利益ハ完全ニ
保障セラルヘシトノ一般原則ヲ嚴重主張スル以上ニ深
入スルニ於テハ甚タ困難ノ事態ヲ惹起スヘシ

セル處閣ヨリ右ニ異議ナキ旨回電アリ然ルニ南方ニ對
シテハ「イングラム」ヲシテ二回ニ亘リ宋子文ニ右ノ
案ヲ承引スル様嚴重勸告セシメタルニ拘ラス宋ハ之ヲ
拒绝セルニ付自分ハ六月初再ヒ「イ」ヲシテ南京側ニ
對シ斯ノ如キ懲當ナル妥協案ニ贊成セサルハ取ラサル
處ニシテ其ノ結果カ如何ニ困難ナル立場ニ陥ルモ外國
側少クトモ英國側ヨリハ何等ノ援助ヲ期待シ得ヘカラ
サルヘントテ嚴重戒告ヲ與ヘシメタリ之ト同時ニ自分
ハ直ニ本國政府ニ右措置ノ經緯及意見ヲ上申セル處六
月四日本國政府ヨリ

就テハ貴官ハ至急南京側ニ對シ關稅擔保外債償還ノ不
履行ヲ來シ且萬一關稅制度ノ破壞ヲ見ルニ於テハ支那
自身ノ爲ニ極メテ不利益ナル事態起ルヘク若シ外國カ
右ノ問題ニ干與スルコトアランカ更ニ問題ヲ惡化スヘ
ク就テハ關稅擔保外債償還ハ外國ノ干涉ヲ期待スルコ
トナク支那自身之力責任ヲ遂行セサルヘカラストノ趣
旨嚴重申入ルヘシ
トテ自分ノ措置ヲ是認シ來レリ依テ右ノ趣ニテ「イ」
ヲシテ改メテ南京ニ戒告ヲ與ヘシムル一方右回訓ノ結
果南京ニ於テ考へ直スヘシトテ山西側ヲ押ヘ來レルカ
其ノ後ノ二週間ハ無爲ニ經過シ遂ニ十六日山西側ノ措
置トナリタル次第ナルカ右ハ要スルニ南京側ノ頑迷ナ
ル態度ト闇ノ面子上免ニ角何等カノ措置ニ出テサルヘ
カラサル破目ニ陥リタルトニ依ルモノナリ

二、自分ノ立場ハ相當困難ナルモノアリ蓋シ南方カ自分ノ
言ヒ出セル案ヲ承引セサル爲自分ハ面子ヲ失ヒ今ヤ北
方ノ措置ニ對シ何トモ容喙スルヲ得サル次第ナリ次
「シンプソン」ハ英國人ニテ英人稅務司ヲ出シタル譯
ナルカ「シ」ニ付テハ兎角ノ評アリ同人ノ就職ハ甚タ

不本意ナルモ同人ニ反対スレハ結局闇ニ對シ権突クコトナル故英國側トシテ措置ノ執リ様ナク（「シ」ニ對シテハ法律上外國ノ内争援助ノ廉ニテ自分ヨリ起訴スルコトモナシ得ヘキモ）何レニスルモ今回ノ闇ノ措置並朱ノ通告ニ對シテハ本國政府ノ訓令アル迄何等ノ措置ヲ執ラサル次第ナリ

三、差當リノ解決策トシテハ決定的考案ハ未タ纏ラサルモ

貴官限リノ極秘ノ含ミニテ御話シスレハ事態斯ノ如クナリタル以上致方ナキニ付一九一七年上海ノ順税問題

供托制度ニ倣ヒ貿易業者ヨリ天津關係國領事館ニ稅金ノwritten bondヲ提出セシメタル上貨物ノ輸出入ヲ了シ置キ戰局一段落ノ後自國官憲ノ指圖ニ依リ現金ヲ支拂フコトシテハ如何カト思考ス尤モ右ハ上海ト事情異ナルニ付實行可能ナルヤ否ヤハ豫斷シ得ス又右實行ニ付テモ複雜ナル技術上ノ研究ヲ要スヘキモ不取敢

十六日右ニ付本國政府ニ電票シ置キタリ尙右ノ案ハ最初ノ案ノ趣旨ニ合致スル故或ハ闇ノ同意ヲ取付ケ得ヘシト思考ス

四、要スルニ本件ニ付テハ日英兩國力最モ重大ナル關係ヲ

有スルニ鑑ミ成ルヘク兩國協調シテ措置スルコトト致度ク就テハ日本政府ノ御意図ヲ早目ニ承ハルヲ得ハ幸甚ナリ云々^{セリ}
上海、南京、天津、奉天、漢口、廣東、青島、芝罘ニ轉電

609 昭和5年6月17日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

シンプソンによる税關執務開始に対し日英より
リ北方側へ注意喚起方メーズ總稅務司より要請について

上 海 6月17日後發
本 省 6月18日前着

公第六〇二號

在天津總領事代理發閣下宛電報第二一三號ニ關シ

十六日及十七日「メーズ」ニ面會ノ節「メ」ハ本件ニ付テハ未タ「ベル」ヨリ何等ノ報告ナキ處右ハ北方側ニ於テ「ベル」ノ電報ヲ差シ止メ居ル爲ナルヤモ知レス元來自分トシテハ支那全體ノ利益ノ爲ニ海關制度ノ維持ヲ念トスル

外何等他意ナク只管右考ニテ行動シ居ル次第ナリ實ハ天津海關差押問題發生ノ當初自分ハ右海關維持ノ見地ニ即シ財政部長ニ對シテ天津ノ海關收入ヲ時局落着スル迄同地ニ積立テ置キ右落着ヲ待チ中央ニ回收スルトシテ北方トノ間ニ妥協ヲ遂クル様進言セシコトアリシモ同部長ノ容ルル所トナラス國民政府ニ於テ別途ノ決定ヲ爲シタル次第ナルカ既ニ政府ノ方針確定シタル以上其ノ官吏タル自分トシテハ之ニ從フ外ナカリシナリ然ルニ北方ニテハ「シンプソン」ノ陰謀モアリ自分ニ於テ殊更南方ノ利益ヲ計リ居ルヤニ誤解シ居ル様子ニテ北方側ニテハ海關乘取り以上更ニ獨立ノ總稅務司ヲ任命スルカ如キコトナキヲ保セス

（「メ」ハ本件ニ付テ闇ハ何ノ程度迄承知シ居ル力疑問ナリ恐ラク「シンプソン」ト朱鶴翔ト相談シテ遣リ居ルモノ

ナラント述ヘ尙「シンプソン」カ總稅務司就任ノ野望ヲ有スルヤノロ吻ヲ洩シ居タリ）要スルニ此ノ調子ニテ形勢更ニ悪化セシカ北方ノミナラス南方ノ諸地方ニテモ勝手ノ行動ニ出ツル虞アリ斯テハ海關制度ハ全然破壊ノ外ナシト思考スルニ付此ノ際利害關係最深キ日英兩國ハ支那ノ爲ノミナラス列國ノ利益ノ爲ニ北方ニ對シ何等壓迫ヲ加フルコト

北平、天津、南京、奉天へ轉電セリ

~~~~~

610 昭和5年6月18日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津海關接収に関する米仏蘭公使などとの会談要旨報告

北 平 6月18日後發  
本 省 6月19日前着

往電第四三七號ニ關シ

十七日米佛蘭各代表ヲ往訪シ（脱）乃至意見大要左ノ通

## 一、米國代理公使

其ノ後天津ヨリノ情報ニ依レハ初メ「ベル」ハ「シンプソン」ノ要求ニ對シ考慮ノ時日ヲ得タキ旨述ヘタルニ「シ」ハ直ニ引渡ヲ要求セル爲「ベ」ハ然ラハ自分ハ強力ニ依リ稅關職務引繼ヲ要求セラレタル結果不巳得稅關ヲ立退ク次第ヲ記シタル文書ヲ「シ」ヨリ貰ヒ

受ケタシト述ヘシニ「シ」ハ之ヲ承認シタル趣ナリ山西側今回ノ措置及通告ニ關シテハ直ニ國務省ニ電報シテ何分ノ訓令ヲ仰ク積リナルカ自分ノ考トシテハ國務省モ不干涉ノ原則ニ依リ行動スヘキカト想像セラルモ今回ノ問題ハ特別ナルニ付或ハ右ト異レル回訓アルヤモ知レス從來米國ノ石油、煙草ハ河南、山西其ノ他ニ於テ北方官憲ノ爲種々不法課稅ヲ課セラレタリ右ニ對シテハ屢次抗議セルカ今回ノ場合ハ徵稅其ノモノハ正當ナルモ徵稅機關ハ米國政府ノ承認セル支那政府ノ令下ニ屬セサルヲ以テ不法ト言フヘク從テ不法ノ機

起ル場合ニハ早速外交團會議ヲ開催シ必要ノ抗議ヲ爲ス意向ナリ云々

上海、南京、天津、奉天、廣東、漢口、青島、芝罘へ轉電セリ

611 昭和5年6月19日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

宋財政部長より天津海關接收への対策として  
天津港の封鎖、天津以外の港における徵稅案  
提示について

上 海 6月19日前發  
本 省 6月19日後着

<sup>(1)</sup> 公第六〇六號  
往電公第六〇二號ニ關シ

十八日宋財政部長來訪先ソ往電公第六〇五號時局ニ關スル談話ヲ交換シタル後同部長ヨリ山西派天津海關接收問題ニ言及シテ本官ノ意見ヲ求メタルニ付本件ニ關スル日本政府ノ態度乃至本官ノ意見ハ毎毎申上ケタル通ニテ今更繰返ス迄モナク日本ハ支那稅關制度ノ保全ヲ極メテ重大視スルモ

關ニ依リ米國船舶力検査セラレ稅ヲ徵セラルコトハ

之ヲ承認シ差支ナキヤ問題ナリ云々

## 二、佛國參事官

本件ハ專ラ支那ノ内政ニ關スルモノニシテ何等外國側ヨリ申出ツル限リニアラスト思考セラレ又「シ」乗込モ平穏裡ニ行ハレ佛國租界ノ行政問題ニモ何等關係ナク旁々佛國トシテハ朱ノ來翰ニ對シ回答モセス又抗議モセサル積リナリ云々

## 三、和蘭公使

本件ニ付テハ差當リ何等措置ヲ取ラス又外交團會議招集ノ意向モナキモ自分ノ最モ恐ル所ハ南京政府カ之ニ對シテ報復手段ヲ取ルコトナリ現ニ自分北歸ノ途中上海ニテ王正廷ニ面會ノ際天津海關問題ノ話出テ王ハ若シ閻力强硬手段ニ出ツルニ於テハ南京ハ報復手段トシテ天津ニテ徵收セラルヘキ稅ヲ上海ニテ徵收スヘシト言ヘルニ付自分ハ斯ル事ヲ爲サハ支那ノ貿易ハ消滅スヘシト答ヘタルニ王ハ少シモ構ハスト放言セルコトモアルニ付或ハ右様ノ措置ニ出ツルコトナキヲ保セス其ノ結果ハ二重課稅トナリ條約違反トナルヘクスル事

ノナリ然ルニ自分ハ貴下カ「ランプソン」邊リノ考ヘ居タル附加稅ヲ廿七日ニ供託シテ海關ハ從來ノ通トシテ妥協スル案ヲ拒絕シタルニ依リ遂ニ北方側ニ於テ今回ノ如キ極端手段ニ出ツルニ至リタルモノナルヤニモ聞及ヒ居レル處右眞相如何ト質ネタルニ部長ハ御承知ノ通附加稅ハ外債ヨリハ寧ロ巨額ノ内債ノ擔保トナリ居ル次第ナル處右附加稅收入一時ニテモ止ル事ハ即チ之等内債ノ保持者タル支那金融界ニ對シ「モラトリアム」ヲ行フ結果トナルヘクスノ如キハ自分ノ到底容認シ難キ處ナリ將又假ニ自分ニ於テ枉ケテ附加稅供託案ニ同意ヲ與ヘタリトスルモ現在天津ニ於テ發生シ居ルヨリモ良好ナル結果ヲ招來シ得ヘシトハ想像セラレサリシニ付旁々自分ハ供託案ヲ斷然拒絕シタル次第ナリト述ヘタル次テ本官ヨリ今回ノ事態ニ對スル對策如何ト尋ねタル處部長ハ對策ニ二有リ其ノ一ハ封鎖ナリ其ノ二ハ天津以外ノ港ニ於テ天津行貨物ニ對スル徵稅ヲ行フ事ナリト述ヘタルニ付本官ハ封鎖ハ事實問題トシテ仲仲簡單ニ實行シ難カルヘク又他ノ港ニテ徵稅スル時ハ二重課稅ヲ現出スヘク何レモ考物ナリ兎ニ角外國側トノ間ニ「トラブル」ヲ起スカ如キ事ハ之ヲ避ケル事然ルヘシト注意シ置キタリ尙

宋ハ差當リ天津海關ハ「クロウズ」スル積リナリト言ヘル  
同地海關「スタッフ」ニ對シ通信ノ方法アリヤト尋ネタルニ  
彼ハ通信方法ハ備リ居レルニ付之等「スタッフ」全部引揚方  
至急命令スヘク此ノ上ハ同地海關ハ成立セサルニ至ルヘシ  
ト述ヘ進シテ外國側ノ本件ニ對スル態度ニ言及シタルヲ以  
テ本官ハ他ノ利害關係少ナキ諸國ハイザ知ラス日本トンテ  
ハ海關制度ノ保持ヲ最重大視スルモノニシテ右ハ單ニ貿易  
關係ニ對スル上ニ止マラス該制度ノ保持力支那全體ノ利益  
ノ爲即チ北方自身ノ利益ニモ合致スルモノト信スルモノニ

二付

シテ從テ自分ハ今回ノ如キ極端行動ニ出テタルコトヲ遺憾  
千萬トナスモノナルカ唯天津海關佛租界内ニ存在スルニモ  
不拘稅關吏力弱腰ニテ殆ト善意ニ海關ヲ引渡シタルカ如キ  
有様ニテハ外國側トシテハ斡旋ノ仕様モナキ次第ニテ此ノ  
際武力ヲ用フルノ不可能ナルハ素ヨリナルカ又其ノ他ニ外  
國側トシテナシ得ヘキ適當ノ善後措置アルヘキヤ否ヤニ付  
テハ本國政府ノ相談シタル上ナラテハ何等申上クルコトヲ  
得スト述ヘタルニ宋ハ自分トシテハ戰局ハ數週間内ニ必ス  
中央側ニ有利ニ好轉スヘキコトヲ確信スルモノニテ（前記

612 昭和5年6月20日 币原外務大臣より  
在中国矢野公使館書記官宛（電報）

天津海關接收に関し關係國と共同して山西側

の反省を促しその次第を南京側に通報方訓令

本省 6月20日後7時発

第一二號

閻錫山ノ天津海關接收問題ニ關シ

一、英國側ニ於テハ事態已ムヲ得ストシ閻ノ非行ニ對シ一  
應不承認ノ意向ヲモ表明スルコトナク直チニ實際的辨

法ヲ講セムトスルノ傾向アル處本件ハ關稅自主許與ト  
ハ別個ノ問題ニテ支那ト列國トノ間ニ特殊ノ歷史的關係ヲ有スル海關制度ノ維持ニ關スル問題ナルカ閻側今  
次ノ措置ノ結果ハ天津稅關ト總稅務司支配ノ下ニアル  
各地稅關ト系統ヲ異ニスルコトトナリ華府會議當時ニ  
於ケル支那全權ノ海關制度維持ニ關スル聲明ト相容レ  
サル次第ナリ從テ華府會議關係國トシテハ之ヲ不問ニ  
附シ得サル筋合ナルノミナラス今本件ヲ不問ニ附シ又  
ハ輕々ニ之ヲ「リーガライズ」セントスルカ如キコト  
アラムカ山西側ノ非行ヲ獎勵スルコトトナリ他ノ方面  
例ヘハ青島、芝罘等ニ於テモ同様ノ計畫アリト傳ヘラ  
ルル今日此ノ方面ハ固ヨリ漢口等ニ於テモ同様ノ事態  
ヲ誘出スルノ虞アリテ結局現行海關制度ノ破壞ヲ來ス  
ヘキノミナラス惹テ地方分裂ノ傾向ヲ助長スル憂ナシ  
トセス從テ支那ノ前途ニ深甚ノ利害關係ヲ有スル華府  
會議關係諸國トシテハ外支双方ノ利益ノ大局並ニ前記  
支那全權ノ聲明ニ顧ミルモ將又山西側ノ行動ニ刺激サ  
レ南京側ニ於テ取ルコトアルヘキ不軌ノ態度ヲ牽制ス  
ル上ニ於テモ此際共同シテ山西側ノ反省ヲ促シ其ノ次

往電公第六〇五號參照）夫レ迄ノ處ヲ兎ニ角海關保全ノ主義ヲ立テ拔ク積リナリ前述天津海關「スタッフ」ノ引揚命令ノ如キ其ノ效果ハ別問題トシ右主義貫徹ノ爲之ヲ實行セントスル次第ナリ而シテ中央側カ現下ノ戰局ニ勝利ヲ收メタル上ハ斯クシテ保全セラレタル海關制度ヲ支那ニ於ケル將來ノ建設事業ノ基礎トナサント考ヘ居ル次第ナリ  
就テハ日本側ヨリモ海關保全ノ爲此ノ上トモ出來得ル限りノ盡力ヲ望ム趣旨ヲ述ヘタリ

北平、天津、奉天、南京ニ轉電セリ

~~~~~

共ニ討議ノ資料タルヘシト思考セラルモ右實際的辨法ノ案出ニハ種々技術的考量ヲ要スヘク旁々相當ノ日子ヲ要スルモノト想像セラル一方天津ニ於ケル貿易ハ支那内争ノ爲メ一時モ之ヲ停止スルヲ得サルヲ以テ

當業者トシテハ右政府ノ不承認ノ態度ニ關係ナキ建前ニテ現稅關ノ閉鎖ナキ限り之ニ依リ取引ヲ繼續スル外ナント思考シ居レリ

三、就テハ貴官ハ以上當方ノ意向御含ミ相成リ華府會議關係國代表者殊ニ英國公使ト御懇談ノ上前記一ノ閣及南京ニ對スル共同申入レ急速取運方御盡力相成度

上海ヨリ南京ニ轉電アリタシ

上海、天津、奉天、漢口、廣東、青島芝罘ニ轉電セリ

613 昭和5年6月20日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

天津輸出入貨物に対する天津以外での徵税は二重課税を引き起すにつき關係國領事館への供託案とり進め方意見具申

ハ北方側ヲ承諾セシムル必要アルヘク又成ルヘク南方ノ

同意ヲモ取付ケ置ク方然ルヘシト存セラル處右ニ付テハ前回積立案ニ關シ英國公使斡旋失敗ノ行懸ニモ顧ミ我方ニ於テ同公使ニ對シ適當援助ヲ與フルコト肝要ナリト存ス（前回ノ場合ハ英國公使ニ於テ單獨ニ意見ヲ決シ我方ト何等ノ協議ヲ爲サス且我方ト共同措置ニ出テサリシコトハ其ノ失敗ノ主要原因ト認メラル）

南京、天津、北平、奉天へ轉電セリ

614 昭和5年6月20日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

國民政府による天津海關一時の封鎖命令の公告について

上 海 6月20日後発
本 省 6月20日後着

公第六一四號

南京發閣下宛電報第四八九號ニ關シ

上海海關ハ十九日附ヲ以テ國民政府ハ

(1) 天津海關ノ一時的封鎖

公第六一三號（至急）
(一) 南京發閣下宛電報第四八九號ニ關シ

天津輸出入貨物ニ對スル課稅ヲ天津以外ノ海關ニ於テ行

フコトハ二重課稅ノ結果ヲ招來スヘキノミナラス斯ノ如キ新例ヲ造ルコトハ將來時局ノ發展ニ依リ出現スルコトアルヘキ自稱中央政府力勝手ニ同様ノコトヲ行フ先例トナラストモ限ラス（最惡ノ場合ヲ豫想スレハ南北雙方ニテ互ニ右ノ如キ措置ヲ行フコトナキヲ保セサルヘシ）益々

海關制度ノ紊亂ヲ助長スル結果トナルヘキニ付海關制度保持ノ精神ニ反ストノ理由ヲ以テ之ヲ承認セサルコト然ルヘシト存ス尙又封鎖ニ付テハ實現不可能ト思考セラルモ今次支那側申出ノ如キ趣旨ニ於テハ之ヲ行フコトモ承認セサルコト然ルヘシ

(二) 北平發閣下宛電報第四三七號ノ三、關係國領事館ニ稅金供託ノ件ハ實行可能ナルニ於テハ（此ノ場合ニハ舊海關「スタフ」ノ援助ヲ必要トスヘキカ）之ニ依リ事態ノ更ニ惡化スルコトヲ防キ得ヘキヤニ思考ス尤モ之ニ對シテ

(口) 同海關「スタフ」ノ撤退及

(ハ) 天津向ケ貨物ハ一切ノ課金ヲ納入スルニ於テハ「レリイズ」セラルヘキ旨（will be released upon liquidation of all fiscal obligation）ノ命令ヲ發セリ

ト公告セリ不取敢

北平、天津、安東、青島、奉天、牛莊、芝罘、關東廳長官へ轉電シ南京へ暗送ス

615 昭和5年6月20日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

ベル稅務司による天津稅關の閉鎖およびこれ

に対する措置につき報告

天 津 6月20日後発
本 省 6月21日前着

第二三五號（至急）
従電第二三三號ニ關シ

其ノ後調査ノ結果「ベル」ニ對スル訓令ハ稅關吏ノ執務ヲ一切差止メ稅關ヲ閉鎖（Close）シ尙稅關吏ハ當分當地ニ止マリ命ヲ待ツヘキ趣ノ由ニテ尙「ベ」ヨリ首席領事ヲ通

上 海 6月20日後発
本 省 6月20日後着

シ總稅務司ノ命ニ依リ二十日午前九時ヨリ稅關ヲ閉鎖シタ
ル旨通告シ來レリ

稅關ハ「ベ」ノ手ニ依リ門戸閉鎖セラレタルカ糸倉ノ談ニ
依レハ英國租界内ニアル稅關俱樂部ニ稅關吏集會シ（支那

人稅關吏及雇員等モ全部出席セリ）「ベ」ヨリ前記訓令ノ
趣旨ヲ傳ヘ支那人稅關吏等ノ身體生命ノ安全ハ責任ヲ以テ
保障スヘキニ付右訓令ニ背カサル様訓示スル所アリ尙英國
租界工部局員モ列席シ充分保護スヘキ旨話シタル後外國人

稅關吏ハ毎日一回集會ヲ約シ散會シタル由ナリ其ノ後稅關
ニ出勤スルモノナク又山西側ニ於テモ自ラ之ヲ開ク準備ナ
ク稅關事務ハ全ク停止セリ

然ルニ二十日午前十一時入港ノ大阪商船長江丸ヲ初メ及明
日我方出入船舶數隻アリ出入港並ニ貨物ノ輸出入手續不可

能トナリ之ヲ放任シ得サルヲ以テ本官ハ英國總領事ト協議
ノ上

一、船舶ノ出入港手續ハ領事館限リニテ行フコト
二、輸入貨物ハ差當リ倉庫ニ陸揚ケ收容セシムルコト但シ
現在ノ如ク事態永引クニ於テハ領事館ニ保證狀及（必
要アラハ）輸入稅概算額ヲ供託セシメ荷主ヲシテ引取

ラシムルコト

三、輸入貨物中蜜蜂、「バナナ」危険品等性質上至急引取
リヲ要スルモノハ領事館ニ手續ノ上直ニ引取ラシムル
コト

四、輸出貨物ハ保證狀ヲ提出セシメ或ハ（供託金ヲ完納セ
シメ）船積ヲ許スコト但シ支那人所有ノ貨物ハ評價困
難ナルヲ以テ原則トンテ取扱ハサルコト

五、右ハ一時の辦法ニ過キサルヲ以テ南京山西何レノ側ナ
ルヲ問ハス正當ナル稅關再開セラルルトキハ之ヲ止メ

收支清算ヲナスコト

等ノ臨時辦法ニ依リ措置スルコトニ話合英國側ハ二十日出
入船舶ナキヲ以テ總領事ヨリ在支公使ニ請訓シタルカ當方
ニ於テハ前述ノ事情ニ依リ至急措置ヲ要シ經伺ノ暇ナキヲ
以テ即日右様取計フコトトセリ御含相成タシ

支那側ニ對スル措置トシテハ午前中英國總領事館ヲ訪問セ
ル海關監督及「シンソン」ニ對シ同總領事ヨリ右様取扱
度意向ヲ傳ヘタル所兩名共異議ナキヲ答ヘタル由ナルカ
當方ニ於テハ後藤ヲ監督公署ニ派シロ頭ヲ以テ同様措置濟
ノ趣申入シメ置キタリ尙支那街ニアル常關モ自然閉鎖トナ
ル

リタルヲ以テ（事由判明セス）必要アル場合輸出抵代稅モ
當館ニテ取扱フコトナルヘク右ハ監督ニ於テ諒解濟ナリ
奉天ヨリ關東廳、牛莊、安東へ廣東ヨリ汕頭へ上海ヨリ南
京、廈門へ漢口ヨリ上流各館へ轉電アリタシ

616 昭和5年6月20日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

天津稅關閉鎖などに關する會談の際宋財政部

長より我が方による南北斡旋方要請について

上 海 6月20日後發
本 省 6月21日後着

往電公第六一三號ニ關シ

天津行貨物ニ對スル關稅ヲ當地ニ於テ支拂フヘキ稅關ノ命
令ハ我カ天津行船舶ニモ適用セラレ當業者モ當惑ノ狀況ナ
リトノコトニテ猶豫シ難キ事態ト認メラレタルニ付二十日
夕刻直ニ宋財政部長ニ會見ノ上自分トシテハ天津稅關乘取

ヲ重大視シ北方ニ對シテモ一般ノ利益ノ爲ニ出來得ル丈ケ
ノ勸說ヲ加ヘ適當ナル妥協ニ達スル様ニ努メムトシツツア

ルニ付

⁽²⁾ 本官ハ支那ノ官吏タル天津海關ノ職員ハ極メテ容易ニ北方
ニ海關ヲ引渡シ今後モ或ハ北方ノ爲ニ仕事ニ就クヤモ知レ

サル様ノ有様ニテ外國ニ於テ强硬ナル態度ヲ表明スルコトハ事實不可能ナラスヤト試ニ述ヘタルニ宋ハ天津海關職員ハ中央ノ命令ナルト「シンプソン」ノ强迫ニ對スル反感ト又上海職員ノ勸誘ニ依リ極メテ强硬ナル態度ヲ執ル事トナリ決シテ天津「シンプソン」ノ下ニ復歸スルコト無シト線返シ述ヘタルカ本官ハ兎ニ角冒頭海關ノ命令ハ嚴格ニ行ハス貨物ノ天津輸送ヲ許シ若シ稅關閉鎖カ御話ノ如ク實行セラルル場合ハ前述ノ通領事館ニ稅金ヲ供託スル等ノ方法ニテ事ヲ治メテハ如何ト說キタル處宋ハ上海總領事ニテ供託スルコトトナレハ考慮ノ餘地アリト答ヘタルニ付本官ハ關稅ハ輸入港ニテ徵收スル原則ヲ離ルル事能ハスト述ヘ宋ハ然ラハ右供託セル稅金ヲ中央ニ送付スル様ニシタント云ヒタルニ付本官ハ兎ニ角領事館ニテ正當ナル「オーソリティ」ニ對スル「ツラステイ」トシテ之ヲ取り集メ更ニ南北ノ間ニ適當ナル妥協ノ成立ニ斡旋シタント述ヘ置ケルカ宋ハ自分モ成ルヘク貴意ニ副フ様考ヘルニ付北方ニ對シテモ充分勸説ヲ試ミラル様希望ストテ別レタリ何トカ話ノ端緒ヲ得ラレサルニ非スト感セラレタリ之迄ノ往電御參照ノ上本件ニ對スル政府ノ態度至急御決定ノ上本官ニ於テ今後執ル

スルコトナレハ考慮ノ餘地アリト答ヘタルニ付本官ハ關稅ハ輸入港ニテ徵收スル原則ヲ離ルル事能ハスト述ヘ宋ハ然ラハ右供託セル稅金ヲ中央ニ送付スル様ニシタント云ヒタルニ付本官ハ兎ニ角領事館ニテ正當ナル「オーソリティ」ニ對スル「ツラステイ」トシテ之ヲ取り集メ更ニ南北ノ間ニ適當ナル妥協ノ成立ニ斡旋シタント述ヘ置ケルカ宋ハ自分モ成ルヘク貴意ニ副フ様考ヘルニ付北方ニ對シテモ充分勸説ヲ試ミラル様希望ストテ別レタリ何トカ話ノ端緒ヲ得ラレサルニ非スト感セラレタリ之迄ノ往電御參照ノ上本件ニ對スル政府ノ態度至急御決定ノ上本官ニ於テ今後執ル

如キ極端ノ手段ニ出ツル事ナク實際的見地ヨリ善處スルコトノ肝要ナルコトヲ說カレ度シ

南京ニ轉電アリタシ

北平、天津、奉天、漢口、廣東、青島、芝罘ニ轉電セリ

天津海關問題に関する領事団會議の開催について

618 昭和5年6月21日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

619 昭和5年6月21日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

シンプソン、ベルの相互撤退、附加税の外国銀行預託の妥協案につきイングラム英國公使と協議について

天津 6月21日後発
本省 6月21日後着

上海 6月21日後発
本省 6月22日前着

第六二八號（大至急）

往電公第六二三號及公第六二五號ニ關シ

廿一日稅關問題ニ付領事團會議開催セラレタルカ日英ヲ除キ一般ニ利害關係ナク氣乗リ薄ニテ何等意見纏マルニ至ラス廿三日月曜日迄ニハ南京政府側ノ意見及山西派ノ態度モ明カトナルヘキニ付同日更ニ討議スルコトトシ散會セリ尤モ山西側ニテ名實共ニ稅關ヲ再開スル場合ハ閉鎖前同様ニ之ヲ相手ニ手續ヲナサシメ差支ナシトノ空氣ナリ

上海、支、南京へ轉電セリ

ヘキ措置ニ付御指示ヲ請フ

天津、北平、南京、奉天へ轉電セリ

617 昭和5年6月21日 在中國重光臨時代理公使宛（電報）

南京側の天津稅關閉鎖には不同意とともに山西側の行動も不承認の旨南京側に申し入れ方訓令

公第二七五號

貴電第六一三號ニ關シ

南京側ニ於テハ遂ニ天津稅關閉鎖ノ措置ニ出テ殊ニ海軍ヲ以テ他國ノ商船ノ天津入港ヲ阻止シ又ハ他ノ港ニ寄港セシメン事ヲ主張シ居ル處右ハ果シテ實行ノ確信アリヤ否ハ兎モ角主義ノ問題トシテモ不問ニ付スルヲ得サル次第ニ付貴官ハ上村來電第四八九號南京側考案ハ固ヨリ今後此ノ種行動ノ主張ニ對シテハ帝國政府ノ不同意ヲ強ク「インプレス」セラルルト共ニ北平宛往電第一一一號ノ通我方に於テハ山西側ノ行動ヲモ不承認ノ態度ニアルコトヲ適宜内話セラレ政局重大ノ時機ニ於テ南京側トシテハ列國ノ同情ヲ失フカ

第ナリト申出タリ右ニ對シ本官ハ本件ニ關スル本國政府ノ

明確ナル方針ヲ承知シ居ラサルモ事態緊急ヲ要シ且重大ナ

ル利害關係件フノミナラス前記「ライン」ニ依ル解決案ハ
大體合理的ト思ハルニ依リ自分ハ何等政府ヲ拘束セサル

趣旨ニテ宋子文說得ニ努ムル事ト致スヘシト告ケ
右解決案ヲ支那側ニ申入ルル方法ニ付研究ノ結果(一)「シン

プソン」ヲ罷免シ(二)總稅務司ニ於テ天津海關ノ Deputy
Commissionerヲ差當リ Acting Commissionerニ任命シ

(三)五分稅ハ直ニ從前通取扱ヲ復舊シ附加稅ハ事件結着迄天津ニ於ケル外國銀行ニ預托スト云フ「フォーミュラー」ニ

テ宋子文ノ說得ニ努ムルコトスヘク而シテ宋等ニテ右ヲ
承諾スル場合ニハ直ニ北方ニ壓迫ヲ加ヘ其ノ同意取付ケ方

ニ努力スヘキ旨ヲ宋等ニ告クヘク又若シ宋等ニ於テ右承諾ヲ與ヘサル場合ニハ在天津關係國領事館ニ於テ徵稅ノ上南

北双方妥協成立スル迄右徵收ヲ保管スルコトスル外ナキ
旨ヲ告クルコトニ打合ヲ了シタリ尤モ本官ニ於テ政府ノ御

方針ヲ承知シ居ラサル關係モアリ又宋說得ノ效果ヨリ看テモ日英共同動作ノ形式ヲ執ルコトヲナサス「イ」ハ公使ノ訓令ニ基ク趣旨ヲ以テ正式申入ヲナシ本官ハ昨日ノ宋子文トノ談話ノ續キトシテ先ツ宋ノ說得ニ努ムルコトニ折合ヒ

タリ
北平、天津、奉天、南京ニ轉電セリ

620 昭和5年6月22日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

シンpson、ベルの相互撤退、付加税の外国
銀行預託の妥協案につき宋財政部長との会談
について

上海 6月22日前發 本省 6月22日前發
往電公第六二八號ニ關シ

廿一日午后「イングラム」辭去后直ニ宋財政部長ニ面會セリ

同部長ヨリ天津海關問題ニ付何等情報ナキヤト尋ネタルニ付本官ハ種々ノ情報ヲ有スルカ要スルニ事態ハ既ニ重大化スルノミナリ中央政府ノ强硬手段ニ依リ即チ昨夜天津海關ハ全然閉鎖セラレタルモ他面右强硬措置ノ結果ハ種々「シリアス」ナル影響ヲ招來シツツアリ就中重大ナル影響ヲ蒙

ムルハ外國側ニシテ現ニ天津方面ノ貿易力非常ナル困難ニ遭遇シツツアルコトハ御想像ニ難カラサルヘシ其ノ結果外國人ノ中央側ニ對スル感情ノ惡化氣遣ハルル次第ナリ啻ニ中央政府トシテ强硬政策ヲ執リ茲ニ勝者トシテ其ノ主義ヲ立テ通シタル上尙主義一點張リニテ「アブノーマル」ノコトヲ續クルコト中央側トシテ決シテ策ノ得タルモノニ非ス蓋シ右ノ如ク主義貫徹ヲ固執スル結果ハ中央ノ關稅實收ヲ增加セサル所カ却テ之ヲ減少スヘキ惧アルノミナラス其ノ執リタル措置ヲ繼續スル結果海關制度保持ノ原則ニ矛盾スルカ如キ事態ヲ招來スヘケレハナリ絞上ノ次第二テ自分トシテハ中央ニ於テ既ニ其ノ主義ヲ貫徹シタル上ハ多少ナリトモ北方ニ對シ寛大ナ態度ヲ示シ以テ實際上ノ效果ヲ收ムルコト中央ノ利益ナルコトヲ確信スルモノナリ尤モ自分ハ未タ本件ニ關スル本國政府ノ的確ナル意嚮ヲ承知シ居ラサルニ付以下述フル所ハ自分限リノ「ザゼツシヨン」トシテ申上クル次第ナルカトテ

前記往電「イングラム」ト打合ノ趣旨ニ依リ解決案ヲ説明シ尙自分ハ天津海關問題發生當初ヨリ種々調査シ又各方面ト意見ヲ交換シ英國側トモ打合ス所アリタルカ右解決案ハ

英國側モ異存ナキ筈ナリト縷々說述シタリ宋部長ハ極メテ熱心ナル態度ヲ以テ傾聽シタル後右ハ日本政府ノ意嚮ナルヤト尋ネタルニ付前述ノ通未タ本國政府ノ意嚮ヲ承知セサル次第ナルカ唯々自分トシテ衷心國民政府ノ爲最良方策ト確信スル所ヲ熱心ニ「レコンメンド」スル次第ナリト答ヘタルニ部長ハ本解決案全體ノ趣旨ニハ異存ナク又天津海關長ノ人ヲ替フルコトニ付テモ反對ニ非サルモ唯附加稅積立ノ點ハ同意困難ナリト申スハ自分ハ精密ニハ承知セサルモ極ク大體ノ數字ヲ説明スレハ天津海關ノ月收ヲ假ニ百二十萬兩トシ其ノ内五分稅約六十萬兩附加稅約六十萬兩ナルカ右附加稅中内債ノ「サービス」ニ充當サルルモノ四十萬兩ニ上リ其ノ他天津「ハーバー、サービス」ノ爲ニモ支出セサルヘカラス(例ヘハ天津港修築ノ爲發行サレタル内債約九百萬弗アリ之等ニ對スル「サービス」三十萬弗ニ上リ事實不足スル位ナリ)絞上ノ次第二テ附加稅ノ積立ヲナスコトハ即チ内債ノ「サービス」ニ故障ヲ生シ影響重大ナルニ付右ハ自分一存ニテ諾否ヲ申上クルコトヲ得ス先以テ政府ニ於テ相談スルヲ要スト述ヘタリ

題ニ關シ既ニ北方ニ對シ勝利ヲ博セラレタルノミナラス更ニ「シンプソン」ノ罷免「ベル」ノ次席者ノ稅務司代理任命海關ノ再開等充分ニ目的ヲ達セラレタル以上ハ附加稅積立ノ件ニ付テハ其ノ主張ヲ引續キ北方ニ說カルルコトトシ

其ノ間ハ之ヲ外國銀行ニ保管シ置クコトスル方穩當ナル

ヘク然ル上ハ北方モ必スシモ頑固一點張リニテ了解セスト

云フコトナカルヘク又貴下ノ御話シノ如ク戰局中央側ニ有利ナリト云フニ於テハ或ハ近ク問題モ自然ニ解決ヲナスヤ

モ知レス何ノ途中央ニ於テ幾分寛大ノ態度ヲ示サルルニ於

テハ北方ニ對シ充分壓迫ヲ加ヘ談合ヲ附ケシメ得ヘキカト

思考ス又一面ヨリ考フルニ本解決案ニ依ル「アレンジメント」出來サルニ於テハ結局外國領事館ニ於テ徵稅スルコト

トルノ外ナカルヘシト思考スル處斯ノ如キハ本解決案ヨリモ有利ナル事態ヲ持來スヘシトハ考ヘラレ斯特述ヘタルニ宋ハ兎ニ角政府ニ於テ相談シ考究シ見ルヘシ尙明日「イングラム」來訪スヘシトノコトナリト云ヘルニ付本官ハ多分自分ト同様ノ要件ナラント思フカ自分等ハ何等共同措置トシテ行動シ居ルニ非少クトモ自分ハ眞ニ國民政府ノ爲ニ有利ナリト信シ親切ナリト思フコトヲ申上ケタル次第ナ

リト説明シ置ケリ

北平、南京、天津、奉天ニ轉電セリ

621 昭和5年6月23日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

イングラムに対し日英共同して南北双方説得

繼續につき申入れについて

上海 6月23日後発
本省 6月23日後着

公第六三五號
往電公第六二八號ニ關シ

英國側カ外債サヘ確保出來レハ可ナリトシ「内政干渉ノ結果トナルヨリハ寧ロ海關制度ノ破壞ヲ忍フ」トノ態度ヲ執リ輕々其ノ趣旨ヲ表示スルカ如キハ支那ニ對スル影響甚タ面白カラスト存シ居リタル處偶々廿二日「イングラム」トノ會談ニ先立チ貴電公第二七五號及北平宛貴電第一一一號等接到帝國政府ノ御方針ヲ承知シタルニ依リ右會談ノ機會ニ於テ本官ヨリ英國政府ノ態度ハ貴官累次ノ御説明ニ依リ良ク承知シ居レルカ内政干渉ニ反對ナルハ日本モ英國ト同

様ナリ然レ共債權ノ確保ト海關制度ノ保全トハ理窟ハ兎ニ角支那ノ實情ニテハ密接離ルヘカラサルモノニシテ海關ノ保全ナクシテ債權ノ確保ヲ期セントスルカ如キハ事實不可能ナルヘシ（此ノ點ハ以前モ度々彼ニ説キタリ）惟フニ右英國政府ノ態度ハ根本方針ヲ定メタルモノニシテ現地ニ於テ此ノ方針ヲ實行スルニ當リテハ宜シク支那ノ實情ニ即シ機宜ニ適スル具體的措置ヲ執ル事肝要ナルヘク然ラスシテ支那人ニ對シ英國政府ノ根本方針ヲ其ノ儘申聞クルニ於テハ例ヘハ居留民保護問題ニ於テ動モスレハ支那力實力モナク又誠意モナクシテ氣易ク外國人保護ノ保障ヲ與フルト同様ノ調子ニテ彼等ハ口先ノミニテ外債確保ヲ保障シ夫レニテ英國側ハ滿足シ海關ノ紊亂ニハ「インテレスト」ヲ取ラサルモノト誤解スルニ至ルヘシ然ルニ英國側ニテハ現ニ今回ノ如ク海關保持ニ關スル種々ノ考案ヲ立テ支那側說得ニ力メ居ラル次第ナリ要スルニ日本モ英國モ支那ノ内亂ニ干涉スルコトニ反対ナルハ勿論ノ義ナルモ之ト共ニ兩國國力ノ有スル自然ノ重味ニ依リ南北双方ニ直接間接ニ「プレッシュア」ヲ加ヘ以テ單ニ債權ノ確保ノミナラス貿易海運其ノ他各般ノ外國側利益ヲ擁護スヘキ立場ニ在ルモ

ノト存ス（尙今次事件ニ依リ差向キ最モ影響ヲ受クルハ英國船ニ依ル貿易ナル事ヲ往電公第六二九號ノ趣旨ヲ援用シ「イ」ノ注意ヲ喚起シ置ケリ）右ハ同時ニ支那全體ノ重大利益ニモ一致スル次第ニシテ華府會議ノ當時ノ事ヲ顧みレハ當然ノ事ナリトテ前記貴電ノ趣旨ニ依リ我方ノ態度ヲ説明シ尙重ネテ南北双方説得ノ努力ヲ續クルノ必要ヲ述へ就テハ矢野書記官ニ於テ同官宛貴電第一一二號御訓令執行ノ際ニハ「シンプソン」公使ヨリ出來得ル限リノ援助ヲ與ヘラレン事ヲ希望スト告ケタル處「イ」ハ右「ラ」公使ニ電報スヘシト述ヘタリ

北平、南京、天津、奉天へ轉電セリ

622 昭和5年6月23日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

南北妥協案中の付加税外國銀行預託案につき

宋財政部長との会談要旨報告

本省 6月24日前着

往電公第六三六號ニ關シ

廿三日宋財政部長ニ面會ノ上日本政府ヨリ正式訓令ニ接シタルカ其ノ結論ハ本官之迄ノ措置ヲ「アブルー」セルモノナリトテ更ニ上村ニ對シ外交部ヨリ申入ノ件ハ日本政府ノ承認スル能ハサル所ナリトテ貴電公第一七五號ノ趣旨ヲ敷衍説明ノ上特ニ中央政府ニ於テ適當ナル妥協案ニ賛成シ事件結果ヲ附クルノ要アル點ニ重キヲ置キ居ルコトヲ述ヘタリ宋子文ハ傾聽セル上本官ノ持出セル妥協案中5%以外ノadditional revenue 外國銀行保管ノ件ハ内國債ト外國債トヲ區別的待遇ニ置ク結果非常ニ國內債權者ニ對シ不公平ノ待遇ヲ爲スモノナリ右問題ハ大部分馮闇モ承認セシモノニシテ最近「シンブソン」モ其ノ聲明中ニ之力「サービス」ハ現狀ヲ維持スヘシト述ヘ居レリト述ヘタルニ付本官ハ兎モ角現狀ヲ以テ進メハ事實上南京政府ノ豫期ノ通ニ進ムヤハ不明ナリ第一天津海關ノ事實上ノ閉鎖ハ今後何時迄續クヤ疑ハシク現ニ「シンブソン」ハ稅關ヲ開クコトニ全力ヲ盡シツツアリ第二上海「トランシツプメント」ニ依ル天津貿易ハ主トシテ英國トノ關係ナルカ（日本ハ利害關係極メテ少シ）

考ス
北平、天津、南京、奉天ニ轉電セリ

623 昭和5年6月23日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）

南北双方への關係各國申入れにつきランブソン英國公使へ提案について

北平 6月23日後発
本省 6月24日前着

貴電第一二一號及第一二二號ニ關シ

廿一日土曜午後貴電接到シタルニ付廿三日早朝「ランブソン」ヲ往訪シ前記貴電第一二一號ノ一ノ趣旨ヲ詳細申入レタル處「ラ」ハ六月四日本國政府回訓ヲ取寄セ之ヲ讀ミ上ケタル後（内容ハ往電第四三七號ノ一ノ通）自分及英國政府ノ本件ニ對スル態度ハ要スルニ右ニテ盡シ居ル次第ナルモ唯右ハ接收前ノ訓令ナルニ付今日ノ狀態ハ必スシモ此ノ通トハ速斷シ得サルカ貴官御話ニ對スル自分ノ差當リノ考ヲ申述レハ

時ヲ經ルト共ニ英國ノ天津貿易ハ上海ヲ經由セサルコトト

ナリ上海ニテノ課稅ハ實行セラレサルヘシ何トナレハ實力封鎖ハ外國トノ關係ハ勿論東三省トノ關係モアリ容易ニ行ハレサルヘキヲ以テ天津トノ直接貿易ハ開カレ居ルヘキヲ以テナリ此ノ形勢ニ於テ中央政府ハ此ノ際至急適當ノ所ニ妥協セラルコト得策ナルヘシト力說シ更ニ貴下ノ内債關係ニ付テハ一昨日本官提出ノ案ヲ採用シ一旦稅關ヲ開キ其ノ上ニテ此ノ點ニ付話ヲ進ムルコトシテハ如何ト述ヘタル處宋ハ右問題ノ「サービス」丈ヶ出來即チ内外債權者ヲ同一ノ地位ニ置クコトヲ約スルニ於テハ其ノ殘餘額ハ外國銀行ニ保管シ置クニ自身トシテハ異存ナク右ノ案ヲ政府要部ニ進言スヘン右ハ貴下ノ好意ニ酬ユル爲ノ決意ナリ就テハ貴下限リニ含ミノ上北方ハ勿論其ノ他ニモ絶對ニ洩レサル様願フト云ヘルニ付本官ハ右ハ一ソノ進歩ナルカ内債ヲ外債ト同様ニ取扱フト云フモ内債ノ性質如何ニ係ル譯ナリ就テハ右關係内債ノ細目ヲ自分ノ参考ノ爲ニ通報ヲ受ケタシト述ヘ其ノ承諾ヲ得置キタリ兎ニ角北京及天津ニ於テ絶エス北方側ヲ壓迫スルト共ニ話ヲ付ケテ双方ノ意見ノ相違點ヲ挾メ妥協點ニ達スル様仕向ケラルコト肝要ナリト思

(一) 華府會議當時ハ支那ハ少クトモ統一サレタル時代ニテ今日トハ事情甚タ異リ又

(二) 從來支那ノ海關制度及吏員ハ共ニ凡テ支那ノ政爭ノ圈外ニアリテ一種ノ半獨立のノ性質ノモノナリシカ故ニ外國債權者擁護ノ趣旨ニモ合シ同時ニ支那ノ爲ニモナリタル次第ナリ然ルニ二年前「エドワード」及「メーズ」ノ一件起リ南京カ「エ」ヲ排シテ「メ」ノ任用ヲ强行シ遂ニ列國ヲシテ之ニ從フノ已ムナキニ立至ラシメ爾後「メ」ハ純然タル支那ノ使傭人タル地位トナリ同時ニ稅關ノ地位モ著シク變化セリ

(三) 而シテ「メ」ハ二年來大ニ勉強シ仕事モ順調ニ運ヒ又幸ニシテ何等官憲ノ干渉モナカリシカ今回ノ事件ニアリテハ「メ」ノ地位ニ鑑ミ凡テ宋子文ノ意ニ從ハサルヘカラサルコトトナリ

(四) 而シテ自分一個ノ考ヨリ云へハ今回閻ノ態度ハ支那ノ現状ヨリ見テ驚クヘキ「リーズナブル」ノモノナリ自分ハ從來朱鶴翔ニ對シ度々接收實行ヲ「ジスカレヅチ」シ閻モヨク隱忍シ來リタルモ南京側カ北方ノfair and reasonableノ妥協ニ應セサリシ故遂ニ今回ノ事件トナリタ

上述ノ如キ事態ニ於テ日本政府ノ希望セラルル如キ申入ヲ
ナスコト時宜ニ適スルヤ否ヤ自分トシテ俄ニ判断スルヲ得
ス何レニシテモ本件ハ直ニ本國政府ニ電報シ訓令ヲ仰クコ
トトスヘシト述ヘタルニ付本官ハ英國政府ハ他ノ諸國ノ意
見ヲ大イニ尊重シ居ル次第ナルカ貴公使カ右ノ如キ意見ヲ
抱懷セラルニ於テハ貴國政府カ日本政府ノ申入レニ贊同
スヘキヤ懸念アルニ付篤ト御考慮ヲ願ヒ度シト前置シ本件
ニ關スル實際上ノ解決方策ハ別問題（脱？）日本政府トシ

テハ華盛頓會議ニ於ケル支那全權ノ聲明ニ顧ミ將又海關制
度擁護ノ主義上ノ問題トシテ且將來ノ「トラブル」ヲ防ク
意味ニテ閻ニ警告ヲ與フルコトハ絕對ニ必要ナリト認メ居
リ且又海關制度維持ノ點ハ英國側ニテ最モ重大ナル利害關係ヲ有シ扱コソ貴公使ニ於テモ本件ニ關シ色々盡力セラレ
居ル次第ニテ今回日本側カ右制度維持ノ爲執ランツル措置ニ付テハ貴公使ハ勿論貴國政府ニ於テ大イニ「アプレシエト」セラルル處ナルヘシト信シ居タル次第ナリ旁何等力ノ方法ニ依リ右日本側提議ノ貫徹スル様協力ヲ得度シト述
ヘ尙日本政府ハ何等閻ニ反感ヲ有スル次第ニ非ス現ニ重光

セリ

624 昭和5年6月23日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

山西側税関を默認した場合の二重課税防止策

に関する領事団より外交団への意見申入れ

別 電 六月二十三日発在天津田尻總領事代理より

幣原外務大臣宛第二五三号

右領事団より外交団への意見

天津 6月23日後発
本省 6月24日前着

第二五二號（至急）

往電第二四三號ニ關シ

廿三日領事團會議再開セラレ席上各國領事ヨリ税關ニ於テ不完全乍ラ執務シ手續ヲナサシムル意向アル旨ヲ披露シ

本官並ニ英國總領事ニ於テモ山西側税關ヲ「デ、ファクト」ヲシテ之ヲ相手トシ手續ヲナサシムル意向アル旨ヲ披露シ

ノ税關トシテ承認スルヤ否ヤノ問題ヲ離レ商人ノ自由裁量ニテ税關ヲ利用スルモノアラハ之ヲ默認スルコトトシ從テ

ヲ受ケ居レリトテ上海宛貴電第二七五號ノ趣旨ヲ然ルヘク内話シ日本政府ノ公正ナル第三者ノ立場ヲ持シ居ル次第等ヲ篤ト説明セル處「ヲ」ハ御説明ニ依リ日本政府ノ今回ノ

御趣旨ハ良ク諒解セリ從テ主義ニ於テハ全然賛成ナルカ唯「タクチック」ノ問題ニ付テハ充分考慮ヲ要スヘク兎ニ角自分ニ今少シ時間ヲ與ヘラ度尙⁽¹⁾假ニ日本政府希望通り實行スルコトシテ右ハ口頭ヲ以テスルヤ又ハ書面ニテナシヤト尋ネタルニ付本官ハ斯ノ如キ點ハ何レ關係國會議ニテ決セラルコトナルヘキモ自分トシテハ口頭ニテハ弱キニ付書面ノ方良カルヘシト答⁽²⁾更ニ「ヲ」ハ此ノ際閻錫山ノミヲ「シングルアウト」スルハ適當ナラス閻以外ノモノ力同様ノ問題ヲ起ス場合ヲモ顧慮シ一種ノ一般的聲明トスルモ一策カト思ハル又ハ南京モ正當政府トシテ海關制度破壊ヲ抑制スル能ハサル責任上南京ヘモ警告文ヲ送付スルコト然ルヘキヤニ考フ兎ニ角自分考慮ノ結果ハ本國政府ヘ電票スヘク尙本件ニ付テハ今後共本官トノ間ニ密接ノ聯絡ヲ保チ度シト希望セリ

上海、南京、天津、奉天、漢口、廣東、青島、芝罘へ轉電

右ノ模様ニ依リ供託金制度ノ如キ辦法モ其ノ必要ナキニ至ラハ取り止ムヘキ旨ヲ述フル所アリ次テ税關ヲ承認スヘキヤ否ヤニ付外交團ニ請訓方然ルヘシトノ意見ヲナス者アリタルモ多數ハ強ヒテ其ノ必要モナシトノ意向ニテ通過セス尙稅關手續再開ニ伴ヒ必ス二重課稅ノ徵收起ルヘキ結果海港運輸ノ貿易業者ニ影響スル所少カラサルヲ以テ關係國ニ於テ之カ防止ノ爲至急共同措置ヲ執ル必要アル次第ニ付外交團ニ對シ別電第二五三號ノ如キ意見ヲ申入ルコトニ決議シ首席領事ヨリ直ニ其ノ手配ヲナセリ

上海ヨリ南京ニ轉電アリタシ
支、上海ニ轉電セリ

（別 電）
第二五三號（至急）

天津 6月23日後発
本省 6月24日前發

當地外國商人ハ山西側税關ヲ相手トセサルヲ得サルヘシ
然ルニ上海税關ハ天津向貨物ニ對シ船舶ノ出（港）許可ニ

先立チ天津ニ於テ納付セラルヘキ關稅等ヲ徵收シ又其ノ他

各港税關ニ對シテモ同様措置スヘキ旨訓令アリタル由ナル

旨ヲ以テ之等貨物ハ當地到着ノ際二重課税問題起ルヘク尙天津積出しニ係ル移輸出貨物ニ付テモ上海其ノ他ニ於テ同様ノ事態發生スヘク從テ右ニ重課税ヲ防止スルニ非サレハ

天津ノ海運及貿易ハ殆ト停止スルニ至ルヘシ

英支天津條約第二十五條等ニ依レハ輸入税ハ到着港ニ於テ輸出税ハ積立港ニ於テ徵收セラルヘキ規定ナリ依テ領事團

ハ外交團ヨリ南京政府ニ對シ同政府ノ實力天津ニ及ハサル限リ當地ノ税關ノ機能ニ對シ干與スヘカラサル旨申入方ヲ

「サゼスト」致度シ

上海ヨリ南京ニ轉電アリタシ

北平、上海ニ轉電セリ

625 昭和5年6月23日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

山西側による税關事務開始に伴い領事館による代収停止について

天津 6月23日後発
本省 6月25日前着

係ニ鑑ミ是非共上海税關ノ如キ措置ニ出テシメサルコト肝要ト存セラル

往電第二三五號ノ通轉電セリ上海ヨリ南京へ奉天ヨリ關東廳營口ヘ轉電アリ度シ

626 昭和5年6月24日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）

南北双方への措置に関する外交團會議における討議内容報告

北平 6月24日後発
本省 6月25日前着

⁽¹⁾天津發閣下宛電報第二五二號ニ關シ

廿四日前外交團會議開催先ツ首席公使ヨリ天津首席領事申越ノ内容ヲ讀ミ上ケ同僚ノ意見ヲ求メタルニ對シ英國公使ハ聞ク所ニ依レハ天津海關問題ニ關シ南北妥協成立ノ望濃厚トナリ來リタリトノコトナルカ此ノ際外交團ヨリ南京側ニ對シ何等申入ヲナスコト時宜ニ適スルヤ否ヤ聊カ疑問ナリ實ハ自分ハ初メ北方ノ接收ニ關シテ領事館供託ノ方法

第二五七號（至急）

往電第二五六號山西側ニ於テ不完全乍ラ税關事務ヲ開始シタルニ付貴電第六三號御訓令ノ趣旨ニ依リ且又往電第二五一號、第二五二號ノ次第モアリ往電第二三五號臨時的措置ハ本廿三日限り差當リ停止セリ從テ貴電第六六號御回訓ハ

本日午後接受セルモ自然立消トナリタリ

尙當地税關再開セラレ商人ニ於テ之ヲ相手トスルニ至レル結果沿岸貿易ハ自然ニ重課税ヲ強要セラル虞アリ當港ノ貿易ハ爲ニ大打擊ヲ受クル次第ニシテ我方トシテハ邦人荷主ノ影響モサルコト乍ラ船會社ノ打擊多大ナルモノアリ（船會社ニ對シテハ荷主カニ重課税ニ應スル腹アラハ積取方指圖シ居ルモ緊急ヲ要スル貨物ニ付テモ斯カル荷主ハ稀置至急撤廢方ニ付此ノ上トモ嚴重御交渉相成ル様致度シ（前記上海發電報巴陵丸ニ付テハ例外的ニ山西側ニ交渉シ二重ニ賦課セシメサル考ナリ）又大連税關ニ關シテハ本官發關東廳宛電報第三號ニテ直接申入レ置キタル通リナルカ（緊急ヲ要スルモノト認メ直接依頼シタルカ不惡御諒承相成度シ）同地ノ條約上ノ特殊地位並ニ當港トノ密接ナル關係急撤廢方ニ付此ノ上トモ嚴重御交渉相成ル様致度シ

（前記上海發電報巴陵丸ニ付テハ例外的ニ山西側ニ交渉シ二重ニ賦課セシメサル考ナリ）又大連税關ニ關シテハ本官發關東廳宛電報第三號ニテ直接申入レ置キタル通リナルカ（緊急ヲ要スルモノト認メ直接依頼シタルカ不惡御諒承相成度シ）同地ノ條約上ノ特殊地位並ニ當港トノ密接ナル關係急撤廢方ニ付此ノ上トモ嚴重御交渉相成ル様致度シ

ノ考察シ一應本國政府へ上申セルカ其ノ後天津へ人ヲ派シ英商ノ事情等ヲ問合セ研究シタル所沿岸貿易ハ大體支那荷主ノ貨物ニテ英國ノ關スル限り現在ニ於テハ問題ハ主トシテ外洋向ノ貨物ノミナルコト判明セルニ更ニ本國政府ニ對シ後者ノ場合船會社ノ請求アラハニ重課税阻止方嚴重交渉スルコト然ルヘキ旨請訓セルカ（往電第四五九號ノ三）右ニ對スル回訓未タ來ラサル此ノ際ニモアリニ重課税ニ付南京側ニ申入ルルコトノ可否ニ付テハ自分トシテハ俄ニ判斷シ得スト述ヘタリ之ニ對シ和蘭公使ハ個人ノ考ナリト断リタル上（一）領事團申越中山西側税關ヲ相手トセサルヲ得ストノ點ハ商人ノ立場ヨリセハ事態上已ムヲ得サルコトト思考セラレ（二）南京政府ノニ重課税ノ措置ハ今次事件發生事情如何ニ拘ラス「アウトトレージアス」ニシテ英支天津條約第二十五條ノ明白ナル違反ナルカ故ニ外國側ニ於テ之ヲ看過セハ條約ノ神聖ヲ犯ス行爲ヲ不問ニ附スルコトトナリ甚タ不可ナルヲ以テ此ノ際何等カノ措置ヲ執ル必要アリト思ハルト述ヘ米佛兩代理公使ハ共ニ大體條約違反ノ點ニ關スル限りハ和蘭公使ノ意見ノ正シキコトヲ認メタリ

依テ本官ハ先ツ（一）ノ點ハ事態上已ムヲ得サルヤモ知レス且

ツ目下上海ニテ具體的妥協方法ニ關スル詰合進行中トノ話ナルカ實際的ノ問題ヲ離レ主義上ノ問題トシ考慮スルニ支那海關制度ヲ保全スヘキコトハ曩ニ華府會議ニ於ケル支那全權ノ聲明ニモ顧ミ當然ノコトナルニ付闇ノ今回ノ措置ハ容認シ得サル所ナルヘキヲ以テ此ノ際將來ノ「トラブル」ヲ防キ本制度ノ保全ヲ期スル必要上闇ヲ始メ南京及其ノ以外ノ者ニ對シ前記支那全權聲明ニ立脚シテ一應ノ申入レヲナスハ必要ナリト思考セラル尤モ此ノ點ハ今日ノ議題ニハ非サルヲ以テ何レ最近ノ機會ニ外交團會議開催ヲ要求スルヤモ計ラレス又(二)ノ點ニ付テハ和蘭公使ノ言ハ至極尤モニテ自分トシテモ同感ナリ現ニ上海重光代理公使ハ東京ヨリ南京側カ天津ノ稅關問題ニ付執ラントスル此ノ種ノ手段ハ如何ナルモノタルヲ問ハス之ヲ容認スル能ハサル旨ヲ南京側ニ申入方訓令ヲ受ケ居レリト述ヘタル處和蘭公使ハ之ハ南京側ニ對スル申入ノ私案ナルカトテ「南京政府ノ措置ハ内外商人ニ對シ非常ナル迷惑ヲ及ホスノミナラス各國通商ノ原則ニモ反シ殊ニ英支條約第二十五條ノ趣旨ニモ反スルニ付關係國ニ於テハ之ヲ容認スル能ハス若シ支那側カ此ノ種措置ヲ執リ外國人力損害ヲ受クル様ノコトアラハ南京政

府ニ對シ賠償ヲ要求スヘシ」トノ趣旨案ヲ讀ミ上ケタリ然ルニ之ニ對シ他ノ同僚ヨリ此ノ際右外交團カ南京側ニ對シ偏頗ノ措置ヲ執ルトモ見ラルノ虞ナキニ非ス旁目下進行中ノ妥協案ノ結末ヲ見極ムル迄待ツ方策ノ得タルモノニナサハ北方ノ措置ヲ是認スルコトトモナルヘシトノ議論モアリ容易ニ意見決セス

最後ニ英國公使ヨリ自分ハ條約違反ノ點ハ之ヲ認ムルモ南京ノミニ對シ一方的ノ措置ヲ執ルコトハ果シテ時局ニ適セリヤ疑ハシ旁南北双方ニ對シテ何等措置ヲ執ルノ外ナキヤト考ヘツツアル次第ナリト述フルヤ他ノ同僚ヨリ南京ニ申入レヲ爲シ其ノ寫ヲ北方ニ送ル方法モアリ等ノ論モ出テタルニ付本官ヨリ南京ノミニ申入レ山西側ニ何等申入レサル譯ニハ行カス依テ北ニ對シテハ海關制度破壞ノ罪ヲ問ヒ南京ニ對シテハ二重課稅ノ不當ナルコトヲ指摘シヤレハ南北双方ニ對シ公平ナルヘシト提言シタル結果大体之等ノ點ニ付考慮ヲ加ヘ來ル廿七日更ニ外交團會議ヲ開キ本件ヲ協議スヘク其ノ間ニ必要アラハ各自本國政府へ請訓スルコトトナレリ

尙同日午后特ニ和蘭公使ヲ訪問シ往電第四五八號「ラ」ニ話シタル内容ヲ差支ヘナキ範圍ニ於テ内話シ日本ハ北ニ對

シテハ海關制度破壞ニ就キ嚴重申入ルト共ニ南ニ對シテハ二重課稅等ノ暴舉ヲ容認セサラントスル公正ノ立場ヲ持スル次第ヲ説明シ午前ノ會議ノ趣旨ニ依リ案文ヲ起草スルナラハ右ノ次第ヲ参考ニセラレタシト申入レ尙南北双方ニ對スル二個ノ案ヲ作り各寫ヲ双方ニ送ルコトニ取計フコト然ルヘク起案ノ上ハ英國公使及本官ニ豫メ相談ノ上金曜ノ會議ニ提出スル様打合セ置ケリ

上海、南京、天津、奉天、漢口、廣東、青島、芝罘ヘ轉電セリ

627 昭和5年6月24日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

シンプソンの罷免、内外債以外の外國銀行への預託が讓歩し得る最後案である旨の宋財政部長の談話について

上 海 6月24日後発
本 省 6月25日後着

⁽²⁾ 其ノ「サーブス」ヲ天津方面ノ支那銀行支店ヲ經テ受クルコトハ彼ノ利益ニシテ北方ニ於テハ先ニ内債ハ本年四月一

日以後ノモノハ之ヲ承認セサル旨ノ宣言ヲ爲シタルカ前記内債ハ皆四月一日以前ノ發行ニ係ル次第ニ付其ノ「サープス」ヲ現状ノ儘トスルニハ異存アル理由ナキノミナラス「シムソン」其ノ他モ右ノ趣旨ヲ聲明シ居レリ

三、尙宋ハ引續キ左ノ通り其ノ態度ヲ明瞭ニセリ

右妥協案ハ貴下ノ熱心ナル御忠告ニ報ユル爲ノ讓歩ノ案ナルカ右ニシテ貴下等ノ盡力ニ不拘北方ノ受諾スル處トナラ

サルニ於テハ中央トシテハ堅固ナル決心ヲ以テ既ニ發令セ

シコト諸種ノ事項ヲ勵行シ更ニ徹底的ノ方法ヲ考フル必要

アリ何トナレハ海關ノ破壞ハ北方ノ始メタルモノニシテ之

カ對策トシテ中央ノ執ルヘキ方策ニ外國ト雖反對ノ理由ナ

キ譯ナリ

外國ニシテ若シ之ニ反對セハ北方ノ理由ナキ措置ニ對シ先

ツ之ヲ否認スルノ實ヲ示ササルヘカラサルコトト考フ若シ

此ノ妥協案ニシテ成立セサレハ其ノ結果ニ付テハ中央トシ

テ責任ヲ取ルコト能ハス

四、右會談ノ際天津領事館ノ稅關代行ニ觸レタルニ付本官ハ南北妥協迄右ノ方法ニ依ルコト唯一ノ良策ナリト考ヘタ

ルカ右ニ對シ南京方面ニ於テ國權侵害ノ理由ヲ以テ反對ア

カ假ニ政權ヲ執リタル場合其ノ怨嗟ヲ召ク虞アルヘシト述

ヘタルニ付本使ハ之ニ對シ既ニ南京政府ヲ承認シタル以上

シ居レトモ支那稅關ノ爭奪ノ如キハ事内政問題ニ屬シ支那側ニシテ二重ノ課稅ヲ爲サヌ又徵稅方法ニ付テ不都合ノ事ナキニ於テハ山西側屢次ノ聲明モアルコトナレハ其ノ儘之ヲ默認シ置ク事得策ナランカト思考シ居レリ且又此ノ際山西側ニ對シ抗議ヲ申入ルルカ如キ處置ヲ執ラハ他日山西側

力假ニ政權ヲ執リタル場合其ノ怨嗟ヲ召ク虞アルヘシト述ヘタルニ付本使ハ之ニ對シ既ニ南京政府ヲ承認シタル以上其ノ以外ノモノカ實力ヲ以テ海關ヲ横取スルカ如キハ兎ニ角不法行爲ト認ムヘク若シ之ニ對シ何等反省ヲモ與ヘサルニ於テハ結局斯ノ如キ非行ヲ獎勵スルコトトナリ各地方ニニモ鑑ミ支那ニ實行ノ義務アルヘシ何レニシテモ一應ノ處置ヲ執ルハ將來ノ爲必要ナリ又山西側ノ怨嗟ヲ受クルト云ハルルモ山西側ノ非行ヲ看過スレハ却テ南京側ノ怨嗟ヲ召ク虞アルヘシト述ヘタルニ「ウ」ハ外國品ニ對シ二重ノ關稅ヲ徵セラルル場合ニハ之ヲ承認シ難キニ付

此ノ點ニ關シテハ既ニ「ランプソン」ニ對シ南京政府ニ注意スヘキ旨申送リタルカ自分（「ウ」）ノ見ル所ニ依レハ

リトノ報道アリ如何ト問ヒタルニ宋ハ自分ハ之ニ反對セス若シ今日之ヲ行ヒ得ルニ於テハ右ハ唯一ノ方法ト思考ス南京ノ反對ハ自分ニ於テ責任ヲ以テ抑フヘシ右ノ點ハ王正廷ニモ電報スヘシト述ヘタリ

南京、北平、天津、青島、關東長官、奉天ヘ轉電セリ

628 昭和5年6月26日 在英國松平大使より
幣原外務大臣宛（電報）

天津海關問題につきウェズレーとの会談要旨 報告

ロンドン 6月26日前發
本省 6月27日前着

第一七四號
貴電合第二七一號ニ關シ（天津海關問題）

六月廿五日「ウエルズレー」ニ面會御訓令ノ趣旨ヲ説明シタル處「ウ」ハ支那海關制度保全ノ必要ハ何國ニ劣ラス之ヲ重視シ居リ又「メーブ」ノ今日迄ノ遣方ニ對シテモ大体満足シ居ルニ付之ヲ支持スル方針ニシテ又「シンプソン」ノ如キハ稅關長トシテ誠ニ不適當ノ人物ナル事モ充分承知

本件カ假ニ支那以外ノ國ニ於テ起リタリトスレハ抗議ハ寧ロ承認セラレタル政府ニ對シナサルヘキモノニシテ叛徒ニ對シ抗議ヲナスハ却テ其ノ勢力ヲ承認スル形トナルノ虞アルヘシト言ヘルニ付本使ハ支那ノ事情ハ他國ト異リ外國ノ權益ヲ保持スル爲中央政府以外地方ノ實權者ニ對シ反省ヲ促シ警告ヲ發スル如キハ絶エス行ハルル手段ニシテ今日山西側ニ對シ同様ノ手段ヲ執ルモ何等差支ナカルヘシ又貴官ノ言ハルル如ク支那内政問題トシテ彼等ニ委セサルヘカラストセハ假ニ南京政府力自己ノ便宜上天津以外ノ地方ニテ徵稅ヲ強行スル場合ニモ之ニ對シ抗議ノ餘地ナキ事トナルニアラスヤト問ヘル處「ウ」ハ言ヲ反ラン「メーブ」ハ他日結局海關ヲ支那人ノ手ニ移スノ外ナキ時期ノ至ルヘキヲ信シ今日ヨリ海關ヲ正當ニ處理シ得ル様支那ノ職員ヲ養成スルコト必要ナリトノ意見ヲ保持シ居ル處右ハ極メテ穩健ナリト信スル旨語リタルニ付本使ハ若シ右カ實行可能ナルニ於テハ結構ナルモ今日ニ於テハ未タ直ニ實行スルコト困難ト信スル旨答へ置キタリ要スルニ「ウ」ハ海關制度ノ維持ト共同動作ヲ執ル事ニハ同感ナルモ支那ノ事ハ正論ノミニ依リ難ク損得ヲ考フル必要アリ外國品ニシテ條約通ノ謀

税ニテ通關スルニ於テハ其ノ權力カ何レニアリトスルモ深ク意ニ止メル要ナカルヘク山西側ノ行動海關制度ノ全部ノ破壞ニハ至ルマントノ考ヲ有スルモノノ如ク本使ト論議ヲ重ネタル結果日本ノ意ノ在ル所ハ諒解セルカ尙日本側主張ヲ詳細ニ覺書ニ認メ交付シ得ハ華府會議ニ於ケル支那ノ聲明ト併セ更ニ慎重研究スヘキ旨ヲ述ヘタリ

當日「ウ」ノ口吻ニ依レハ所謂「ランプソン」案ハ餘リ複雜ニシテ大シテ乘氣セサルモノノ如ク未タ研究シ居ラサル様見受ケタリ

米ヘ轉電シ佛伊白ヘ暗送セリ

宋子文カ内諾シ居ル妥協案ハ大体閻側ノ希望ニモ副フモノト認メラルルヲ以テ「アクティング、コミショナー」任命ノ形式（南北双方任命又ハ總稅務司ノ任命ヲ北方ニテ確認スル等）ノ如キハ如何様ニモ話合ヲ付クルコトトシ本案ノ程度ニテ双方妥協スルコト大局上極メテ望マシト思考ス付テハ貴官ハ此ノ際機ヲ逸セス「ランプソン」ト協力シテ閻側ヲ説得シ本件至急收拾方百方御努力相成度ン

上海ヨリ南京ニ轉電アリタシ

上海、天津、奉天、漢口、廣東、青島、芝罘ヘ轉電セリ

629 昭和5年6月26日 常原外務大臣より
在中國矢野公使館書記官宛（電報）

宋財政部長内諾の妥協案をもってランプソン

英國公使と協力の上閻側説得方訓令

本省 6月26日後6時15分発

第一一六號 至急

貴電第四六五号及上海發本大臣宛公第六五五号及第六五三号ニ閻シ

630 昭和5年6月26日 在中國矢野公使館書記官より
常原外務大臣宛（電報）

閻側への妥協案説得につきランプソン英國公

使を鞭撻について

北平 6月26日後発

本省 6月27日後着

第四七二號
本官發上海宛電報

第四六號ノ一
往電第四五號ニ閻シ

廿六日「ランプソン」ト懇談シタルカ

一、「ラ」ハ自分ハ「イ」ヨリ宋子文案案ノ「デテール」接

到前廿五日夜「イ」ニ對シ

吾人ハ南北繫争者間ニ直接ニ介在シテ將來本件ニ「タ
イド、アップ」セラルルコトヲ欲セス要ハ南北直接ニ可然キ方法ニテ接洽スルヲ可トスヘク其ノ場合ニハ英

國側トシテ援助ヲ惜マス從テ此ノ際南北ヨリ右交渉ニ當ル代表者（例へハ南ヨリ「ペル」又ハ「グリエソン」

北ヨリ稅關監督）ヲ任スルコト一案ナルヘク若シ南方ニ於テ右任命ニ異議ナキニ於テハ自分モ北方ニ對シ勸

說ヲ試ミテモ可ナリトノ趣旨ヲ電報セルカ次テ廿六日朝「デテール」接到セリトテ貴電第二五五號「メツセ」

ジ」ヲ示シタリ

二、依テ本官ヨリ前記昨夜ノ貴電ニ依リ推測スレハ南京側ニ於テ代表者ヲ出ス意思定マラサル以前ハ貴公使トシ

テ何等本案ニ對スル北方ノ意嚮ヲ「サウンド」スルコトスラセラレサル御意嚮トモ見受ケタル處（「エブリ

又前記宋ノ案ノ「ブリーフ」ニ依ルモ將又重光代理公使來電（大臣宛貴電第六五五號ノ各點ヲ差支ナキ程度ニ説明シタリ）ニ依ルモ内債ノ點ニ關シテハ北方ニテモ此ノ程度ノ金ヲ上海ニ送ル事ノ不當ナラサルヲ諒解スヘキニ付旁此ノ際北方ニテ本案ヲ受諾スル様極力勧說ヲ試ミル事ト致シタシト述ヘタル處「ラ」モ遂ニ之ヲ首肯シ然ラハ只今直ニ「タイチマン」ヲ派シテ朱ニ面會セシメ宋子文案案ノ各項ヲ閻カ受諾スル様勸告セシムルニ付貴方ヨリモ館員ヲ朱ノ許ニ遣サレタシト云ヘ

ルニ付大橋ヲシテ豫メ「タ」ト打合ノ上即日朱ニ會見セシムル事トセリ尙右朱トノ會見ニ付テハ

(イ)宋子文ノ意見ノ如ク日英公使館ノ自發的「サジエス

ション」トスルハ面白カラサルニ付各方面ノ意見ヲ

綜合研究シタル結果之ナラハ南北双方ニ對シ妥當ナ

リト認メタルモノナリト説明スルコト及

(ロ)徒ニ北方ノ感觸ヲ「イリティー」スルハ不得策故日

英ハ表面別ニ行動スルコトニ打合セタリ

三、尙貴電第二五二號ニ關シ此ノ種ノ妥協案ニ付「ラ」ハ何人ト接洽シタルヤ等ノ點ニ付説明ヲ求メタル處第一ノ案（大臣宛往電第四三七號）ハ當時朱鶴翔ト自分ト話合ノ結果出來上リタルモノニテ朱ハ自分ノ案ノ如ク云フモ何レヨリ云ヒ出シタリト言フ譯ニ非ス其ノ後天津稅關接收セラレタル際天津稅關監督ハ英國總領事ニ向ヒ右案復活ノ意味ノ第二案（大臣宛往電第四五五號）（ノ三末段）ヲ持チ來リ「ラ」ヨリ「イ」ニ電報セル次第ナルカ宋子文ハ右案ニ更ニ内債ノ件ヲ加へ今回ノ草案トナリシ次第ナリ何レニシテモ本件ニ關シ自分ハ朱以外ハ何人ニモ接洽シタル事ナシト云ヘリ

大臣、天津、南京、奉天へ轉電セリ
631 昭和5年6月27日 勅原外務大臣より
天津海關問題に関する勅原外務大臣と駐日英

國大使との会談要領通報

本省 6月27日後8時10分発
公第二八六號

二十六日英國大使來訪ノ節天津海關問題ニ言及シタルニ付本大臣ハ海關制度ノ維持ハ日英共ニ重大ナル利害關係ヲ有スル問題ニシテ日本トシテハ在支日英兩國公使館從來ノ關係ニモ顧ミ之ガ対策等ニ付テハ相互ニ充分打合セヨ為シタル後支那側ニ臨ム可キコトヲ期待シ居リタル處間今次ノ天津稅關接收ニ先チ「ランプソン」公使ハ何等日本側ト打合セヨ為スコト無クシテ閻錫山側ト解決案ヲ議シ之ニ基キテ南京側ニ内交渉ヲ為シタルコト明トナリタルカ自分ハ敢テ同公使ノ解決私案ノモノニ反対シ又ハ其ノ行動ヲ非難スル趣旨ニハ非ルモ日英ノ關係ト問題ノ性質ニ顧ミ同公使ハ如何ナル積リニテ右ノ如ク単獨行動ニ出テタルヤト不思議

ニ思ヒ居ル次第ナル旨ヲ述ヘ更ニ元來支那海關ノ「インテグリティ」ヲ維持スルコトハ支那ノ將來ヨリ言フモ將又債権國ノ利害ヨリ言フモ極メテ重大ナル問題ニシテ輕々ニ取扱ル可キモノニ非スト思考セラルルノミナラス海關制度ノ維持ニ付テハ華府會議ノ際支那委員ヨリ聲明ヲ為シ居リ右ハ支那ノ自發的声明ノ形式ヲ採リ居ルモ實際ニ於テハ日英其ノ他各國代表者ヨリノ强硬ナル要求ニ基キ為シタルモノナル一方「メーズ」ハ總稅務司任命以來二年間漸次内外ノ信賴ヲ得ツハアルニ對シ日本トシテハ英國ト共ニ同氏ノ地位ヲ擁護スルニ努メタキ次第ナルニ今回閻側及南京側ノ双方ニ於テ海關制度ヲ破壞スルカ如キ態度ニ出テ居ルニ拘ラス「ラ」公使ニ於テハ案外之ヲ輕視シ或ハ外債ノ確保サへ出來得レハ海關制度破壞ノ如キ止ムヲ得スト爲シ居ルカ如キハ如何ナル積リナル可キヤト述ヘタルニ同大使ハ右「ラ」公使ノ言動ハ何レモ意外ナリトテ本大臣ノ所言ニ同感ノ意

ヲ表シ居リタリ
南京ニ轉電アリタシ
天津、北平へ轉電セリ

632 昭和5年6月27日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）
外交團會議における南北双方への申入案採用について
北平 6月27日後発
本省 6月27日後着
第四七八號（至急）
往電第四六二號ニ關シ

廿七日外交團會議開催貴電第一一一號ノ趣旨ノ閻宛申入案及二重課稅ニ付南京ニ對スル抗議案採用セラレタルモ（委細後電）米國代理公使ハ未タ本國政府ヨリ回訓ニ接セサル趣ニテ右回訓到着迄前申入發送ヲ待ツコトトナリタルニ付此ノ際在米大使ニ對シ米國政府ニ督促方御訓電相成度シ上海、南京、天津、奉天、漢口、青島、芝罘、廣東へ轉電セリ

633 昭和5年6月27日 在中國矢野公使館書記官より
幣原外務大臣宛（電報）
外交團による南北双方に対する申入れ案について

別電一 六月二十七日発在中国矢野公使館書記官より

幣原外務大臣宛第四八二号

閻宛外交団申入れ案

二 一六月二十八日発在中国矢野公使館書記官より

幣原外務大臣宛第四八三号

南京宛外交団申入れ案

南京宛外交団申入れ案

北平 6月27日後発

本省 6月28日前着

第四八一號

往電第四六二號ニ關シ

同電未段本官申入ノ次第モ考慮ニ加ヘ首席公使ニ於テ南北双方ニ對スル申入案ヲ作成セル處閻宛ノ分ハ貴電第一一
號ノ御趣旨ニ合致シ居リ又ニ重課稅ニ關スル南京宛ノ分
上海宛貴電第二七五號ノ御趣旨ニ副フヤノト認メ其ノ間各
公使館ヲ廻リテ右案ニ依リ申入ヲ實行スル様說得ニ努メタ
ルカ廿七日ノ會議ニ於テハ各國トモ大体右案ノ趣旨ニ贊成
シ字句ノ點ニ付多少ノ變更ヲ加ヘタル上閻宛ノ分別電第四
八二號ノ通又南京宛ノ分別電第四八三號ノ通決定シタリ但
シ之カ發送ハ往電第四七八號ノ通米國政府ノ回調接到迄待

シヨーメナソリ參照輸報
別電ニ共リ上海、南京、天津、奉天、漢口、廣東、
海南、杭州、廈門ヤリ

(電報一)

Peiping, June 27 th p.m.

Received, June 28 th a.m., 1930.

Gaimudaijin, Tokio.

No.482

⁽¹⁾ On behalf of my interested Colleagues and myself, I have the honour to advert to the change of personnel of the Customs House in Tientsin effected under your Excellency's instructions, whereby the unity of the Customs Administration has been seriously jeopardized.

My colleagues and I feel it our duty to point out that the integrity of the Maritime Customs Administration, which has hitherto been preserved interact through long periods of civil strife is of the first importance. Not only but the entire Customs revenues the corner

stone of the fabric on which the credit of the country is built up, but the smooth working of the Customs organisation is vital to the continued prosperity of the country's trade.

⁽²⁾ Any action, therefore, by any authority, which

tends to the disintegration of that organisation, is highly detrimental to financial and commercial interests in China, whether Chinese or foreign.

The representatives of the interested Powers feel constrained to point out that Your Excellency's action runs counter to the declaration made by the Chinese delegation to the Washington Conference in 1922, to the effect that the Chinese Government had no intention of taking any steps which might disturb the present administration of the Customs.

In notifying Your Excellency as above I enclose herewith a copy a of a note which I have addressed equally on behalf of my interested Colleagues and myself to His Excellency Dr. Wang Cheng-ting on the

(電報二)

My interested Colleagues and myself have taken note that a declaration has been issued stating that the Tientsin Customs House is temporarily closed, that the staff of the Customs House has been withdrawn, and that cargo destined for Tientsin will be released upon the liquidation of all fiscal obligations (at other ports). My colleagues and I have the honour to invite Your Excellency's attention to the fact that, under the Treaties in force between China and the foreign Powers, import duties are only payable on the landing of the

goods and export duties on the shipment of the same it is, therefore, not within the competence of any authorities to stipulate that import and export duties properly leviable at Tientsin shall henceforward be collected at other ports, which moreover lays an unwarranted burden on the trade of foreign nationals.

⁽²⁾ The Representatives of the interested Powers have the honour accordingly to notify Your Excellency that they must refuse to admit any right to collect customs duties at any port not in accordance with the procedure clearly specified in the Treaties. They must, therefore, hold the Chinese Government responsible for refund of any double duties paid by their respective nationals under the declaration above quoted, and reserve to themselves the right in due course to claim the refund of such double duties from the Chinese Government.

Further the Representatives of the interested Powers feel constrained to point out that the system now introduced runs counter to the declaration made by the Chinese

Delegation to the Washington Conference in 1922, to the effect that the Chinese Government had no intention of taking any steps which might disturb the present administration of the Customs.

In notifying your Excellency as above the afore-said Representatives have the honour to forward a copy of a communication which they are addressing to Marshal Yen Hsi-shan on the subject of the recent proceedings regarding the Tientsin Customs.

In notifying your Excellency as above the afore-said Representatives have the honour to forward a copy of a communication which they are addressing to Marshal Yen Hsi-shan on the subject of the recent proceedings regarding the Tientsin Customs.

Yano.

~~~~~

634 昭和5年6月28日 在中國矢野公使館書記官ハ  
常原外務大臣宛

(欄外記入)  
機密第六一八號  
昭和五年六月二十八日  
(7月7日送致)

在支那日本公使館

公使館一等書記官 矢野 真 [印]

南北双方への申入れ案に關する外交團會議の  
経過報告

往電第四八一號ニ關シ  
六月二十七日外交團會議前ノ經過及會議ノ模様何等御参考迄ニ別紙ノ通報告ス

本信寫送附先 上海 奉天 天津  
漢口 青島 廣東 芝罘  
南京

外務大臣男爵 桥原 喜重郎殿  
天津海關問題外交團會議ニ關スル件  
往電第四八一號ニ關シ  
六月二十七日外交團會議前ノ經過及會議ノ模様何等御参考迄ニ別紙ノ通報告ス

ノ事態ニ對シテハ同政府ヲ責ムヘキ筋合ニテ他ヲ責ムルハ筋違ヒノ感アリ(閻宛抗議ニ對シテハ閻ヨリ自分ハ初メヨリ本件ヲ正當且圓滿ニ解決シ度キ考ナリシカ故ニ長時日待チタルモ南京政府側ノ態度頑冥ナリシ爲終ニ今回ノ接收措置ニ出テタル次第ナリト回答シ來ルベク又南京政府ヘノ申入ニ付テハ不當ノ干涉ヲ爲ストノ論議モ起ルベント述フルアリ

本官ハ右等諸論ニ對シ夫々可然説得ニ努メ大體我方ノ意向ヲ了解セシメ得タルカ殊ニ英國公使ハ本件南北ニ對スル申入ノ時期ニ付テハ南北妥協案成功後ニ爲ス方可然ヤニ思考スト述ベタルニ付本官ハ之以上延引センマルニ於テハ各國側ノ諸種ノ意見ニモ鑑々結局纏マラサルニ至ルノ虞アルノミナラス本件申入ハ南北ノ妥協ヲ促進スル上ニ有效ナルヤモ知レサルニ付本件申入ノ方ヲ先ニスル方可然旨述ヘ同公使モ終ニ之ニ同意シタリ

尙本官ハ和蘭公使ニ面會シ南京政府ニ對スル申入中ニ軍艦臨檢ノ點ヲ擧ケテハ如何ナルヘキカト諮リタルニ同公使ハ南京政府側ハ斯ルコトヲ實行スル能力モナカルヘク又今回ノ抗議ハ專ラ條約上ノ論議ナルニ付軍艦ノ點ハ入

レサル方適當ナルヘシトノ意見ナリシニ付本官ニ於テモ  
強テ主張スルノ要モナカルヘシト認メ其儘ニ爲シ置キタ  
リ

(二) 六月二十七日外交團會議ニ於テハ先ツ首席和蘭公使ハ二  
十六日本件南北雙方ニ對スル申入案ヲ各公使ニ配布セル  
旨ヲ述ヘ右ニ對スル批評ヲ求メタル處

米國代理公使ハ國務省ヨリ未タ何等ノ回訓ニ接セスト述  
ヘ

獨逸公使ハ本件兩案ニハ大體ニ於テ異議ナキモ自分ノ兩  
案ヲ讀ミテノ印象ニ依レハ閻錫山ニ對スル抗議ノ方南京  
政府ニ對スル分ヨリモ語調弱キ様思ハルト述ヘタルニ對  
シ

和蘭公使ハ之ニ對シ右ハ當然ナリ何トナレハ南京政府ノ  
措置ハ外國ニ對シ實際上ニ金錢上ノ損害ヲ與ヘ居レルモ  
閻錫山側ノ措置ハ唯稅關吏ヲ入レ換ヘタルノミニテ之力  
爲外國側ノ財政的損失ヲ招クモノニ非ス加之若シ閻ニ對  
スル申入ヲ之以上ニ強クシ又ハ餘リニ仔細ノ點ニ亘ルト  
キハ夫レ丈ヶ閣ノ地位ヲ高ムル次第ニ結局列國側力閻  
ヲ何等カノ意味ニ於テ承認スル様ノ結果ヲ齋<sup>セイ</sup>スヤモ知レ

サルニ付此點ニ付テハ餘程用心ヲ要スヘク旁原案位ノ所  
力適當ナルヘシト思ハル尤モ都合ヨク意味ヲ強ムル文句  
モアラハ提案アリタシト求メタル處  
英國公使ハ然ラハ一案トシテ南京政府宛ノ案ヲ少シク弱  
ムル考案ヲシテモ可ナルヘシト述ヘタリ  
本官ハ外交團トシテハ南北雙方ニ對シ主張ヲ強ク「イム  
プレス」スル必要アルニ付寧ロ南京政府宛ノ分ハ其儘ト  
シ是非共必要ナラハ閻宛ノ分ヲ強ムル方宜シカルヘシト  
述ヘ  
協議ノ結果閻ニ對スル分ヲ強ムル方法ハ無キニ付此方ハ  
其儘トシ南京政府宛ノ文句ノ第三節中原案ニハ They  
will, therefore, hold the Chinese Government strictly  
responsible • • • メトコシカ They must, therefore,  
hold the Chinese Government responsible • • • メ  
改メ又同節末段 and they will in due course claim • • •  
トアリシカ and reserve to themselves in due course  
to claim • • • メ改ムハコトトナシカ  
次ニ丁抹代理公使ハ閻宛公文ノ中ニ二二三〇附閻ノ各公  
使宛通告（往電第四六四號）ノ末尾ニアル軍費ニ使用ス  
トアリシカ

次ニ丁抹代理公使ハ閻宛公文ノ中ニ二二三〇附閻ノ各公  
使宛通告（往電第四六四號）ノ末尾ニアル軍費ニ使用ス  
トアリシカ

ル意思ナシトノ趣旨ヲ外交團トシテ「テークノート」ス  
ル意味ノ文句ヲ入レテハ如何ト提案セリ

右ニ對シ本官及米、獨各代表者ヨリ此點ハ關稅制度維持  
ノ問題ニ直接關係ナキノミナラス前記ノ如ク仔細ノ點ニ  
入ルコトニ依リ閻ノ地位ヲ高ムルコトトナリ惹テハ閻ニ  
對シ「セミ、レコグニシヨン」ヲ與フルコトトナルヘシ  
ト述べ

和蘭公使モ之ニ贊成シタル結果右提案ハ不採用ニ決定セ  
リ

次テ佛國代理公使ハ大體原案ニ贊成ナルモ唯南京側ニ對  
スル申入ニモ華府會議ニ於ケル支那全權ノ聲明ノ點ヲ入

ルルコト南京政府ヲシテ責任セシムル效果モアルヘ  
シト述ヘ一同異議ナク結局原案ハ四節ヨリナリシヲ閻宛

第三節ノ趣旨ヲ取り來リテ第四節トシ全體ニテ五節トス  
ルコトセリ

右ニテ大體一同異議ナク案文決定シ唯其發送ハ米國代理  
公使カ國務省ヨリ回訓ヲ接受シタル上ノコトノト爲スコト  
ニ決定セリ右決定案別紙甲號ノ一及二ノ通

(一) 一十七日ノ會議中英、伊、佛、白各代表者ハ夫々本國政  
事

(別添乙號)

Telegram received from Foreign Office, London, 27/6/1930.

With reference to the communication from the  
Japanese Government conveyed by H.E. the Japanese  
Ambassador to Sir Victor Wellesley during his interview  
at the Foreign Office on June 25th, His Majesty's  
Government agree that it is desirable that representations  
should be made to the Shansi authorities on the subject

of their recent action in connection with the Maritime Customs at Tientsin. They consider, however, that it would be difficult to base such representations on Nine Power Treaty or the Declaration of Chinese Delegations at the Washington Conference to the effect that the Chinese Government had no intention to effect any change which might disturb the present administration of the Chinese Maritime Customs. It is true that if nothing is done it may encourage similar action at

other ports with serious results to the Customs Administration and foreign Commercial interests generally but on the other hand it seems to be desire of the Shansi authorities to maintain the Customs Administration on the same footing as before.

His Majesty's Government therefore consider that it would be preferable that any representations that may be made should follow the lines of the proposal discussed at the meeting of Ministers of interested Powers in Peking on June 24th 1930, namely that

(欄外記入一)  
昭和五年七月二日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛  
天漁港開闢問題未解決により我が方が吸上の影響  
難いところ  
機密第六三六號  
(～月10日接受)

昭和五年七月二日 在支那日本公使館  
公使館一等書記官 矢野 真〔丘〕  
外務大臣男爵 裕原 喜重郎殿  
天津海關問題未解決ニ依リ吾方ノ受クル影響ニ關スル件  
本件ニ關シ六月二十九日當館大橋書記官カ天津ニ出張シ田尻總領事代理等ヲリ聽取セル要點左ノ通  
一、支那他港ヨリ天津ニ輸入サルル沿岸貿易貨物ニ付テハ最近「シンドン」ヘ計ヒニテ他地ニテ天津ニ於テ徵收サルヘキ沿岸貿易稅ヲ徵稅サレタル證明書ヲ提示スルリ於テハ天津ニ於テハ二重ニ徵稅セサルコトニ大體決定シタル趣ナルヲ以テ天津ニ於テ曰下最ヤ重要ナル問題ハ天津ヨリ他港ニ輸出サルル貨物（上海向ケ綿花

representations should be addressed both to the Nanking Government on the ground of Treaty violations involved in their retaliatory action and to the Shansi authorities on the ground of importance of maintaining the integrity of the Customs. It might further be pointed out in support of these representations that the combined effect of the action taken by both sides was to inflict grave injury both to China herself and to foreign commercial interests in China.

The drafts of representations on these lines which it is proposed should be made are to be considered at a meeting of Ministers in Peking on June 27th and His Majesty's Government suggest to the Japanese Government that it might be left to their representative at Peking to discuss the precise wording of the proposed representations.

(欄外記入二)  
本報社ノ末尾及英政府ノ「ハバハハ」ニ翻訳令ハ一讀  
アリタシ~~~~~

最重要ノ問題ナリ即チ現在此種貨物ハ天津にて一度沿岸貿易稅ヲ支拂ヒタル後更ニ到着港ニ於テ天津ニ於テ納入スベキ部分ヲ「重ニ課稅セラルヘキ虞アル爲苟動キ減少シ是カ爲此種貨物ヲ取扱ヒ居ル邦商力直接迷惑ヲ感シ居ルハ勿論天津ノ輸出貿易ハ全體トシテ非常ノ阻害ヲ受ケ北支一帶ノ不景氣ヲ深刻ナラシメ一般支那人ノ購買力ヲ衰ヘシメ間接ニ本邦商人ニ惡影響ヲ與フル危険大ナリ此種貨物ハ主トシテ支那人ノ取扱ニンテ本邦人ノ取扱者尠ク從テ本邦貿易商力是カ爲受クル直接ノ損害（但シ天津ヨリ大連ニ輸出シタル邦商ハ天津及大連兩地ニ於テ輸出稅ヲ積ミ立テ未解決ノ爲困却シ居レリ）ハ大ナラサルヘキモ沿岸貿易ハ主トシテ大阪商船大連汽船等ノ本邦船ニ依リテ行ハレ居ル爲荷動き減少ト共ニ本邦海運業者ノ蒙ル打擊鮮少ナラサル如シ

一、貨物カ支那他港ヨリ天津ニ輸入サルル場合他港ニ於テ天津納入部分ヲ已ニ徵稅サレタル時ニハ天津ニ於テハ新ニ課稅セラレサルヘキコト前述ノ通ナル處「シンドン」ハ其穴填メニ上海ニ送ルヘキ五分正稅ヨリ他港

(欄外記入三)

ニテ徵收サレタル額丈ヶ差引カムトスル腹ヲ有スルヤ  
ニ傳ヘラレ且天津ヨリ他港ニ輸出スル場合天津ノ貿易  
業者保護ノ見地ヨリ他港ニ於ケル再徵額ヲ天津ニ於テ  
拂戾スカ如キ便法ヲ講セストモ限ラサル處其際輸入沿  
岸貿易ノ場合ト同様其額丈ヶ五分正税ヨリ差引クニ至  
ルヘキハ想像ニ難カラサルカ果シテ左様ノ事態發生ノ  
場合ニハ天津ヨリ上海ニ送ルヘキ五分正税ハ皆無トナ  
ルカ若ハ非常ニ減少シ外國債權者ハ是カ爲損失ヲ受ク  
ルニ至ルヘシ

三、各國貿易商ハ山西稅關ニ對シ其要求スル稅額ヲ納入シ  
居ルモ將來同海關カ南京ニ回收サルルカ如キコトアル  
場合不當稅關ノ徵稅ヲ否認シ新ニ納入方ヲ要求セスヤ  
トノ懸念アリ現ニ英國船會社ノ如キハ輸送ノ引受ニ際  
シ右様ノ場合ニハ荷主ニ於テ二重拂ノ責ニ應スヘキ旨  
ノ保證狀ヲ荷主ヨリ取付ケ居ル位ナリト言フ

其外天津ニ於テハ稅關ニ保稅倉庫無ク船會社ノ倉庫ヲ  
以テ夫レニ代用シ居ル趣ナルカ從來船會社ハ稅關ニ對  
シ自己ノ倉庫ヲ保稅倉庫トシテ嚴格ニ運用スヘキ旨ノ  
保證狀ヲ差入レ居リ然ルニ目下不當稅關ノ命ニ依リ貨  
シ右様ノ場合ト同様其額丈ヶ五分正税ヨリ差引クニ至  
ルヘキハ想像ニ難カラサルカ果シテ左様ノ事態發生ノ  
場合ニハ天津ヨリ上海ニ送ルヘキ五分正税ハ皆無トナ  
ルカ若ハ非常ニ減少シ外國債權者ハ是カ爲損失ヲ受ク  
ルニ至ルヘシ

物ヲ引渡シ居ル處南京カ稅關ヲ回収スル場合保證狀違  
反ノ問題生セスヤト懸念サレ居レリ

四、日本ノ船舶ハ支那ニ於テハ三ヶ月ヲ一期トシテ頓稅ヲ  
支那ノ何レカノ一港ニテ納入シ他港ニ通用シ居ル處今  
後天津ニテ頓稅支拂ヲ要求サルルト同時ニ同一船舶ニ  
付他港ニ於テモ右支拂ヲ要求サルル憂アリ此點モ本邦  
船會社トシテハ大分心配シ居ル模様ナリ

五、事情斯クノ如ク此儘未解決ノ儘放置スルニ於テハ直接  
間接外國商ノ蒙ル不利不安大ナルニ付至急何等カノ妥  
協ノ成立ヲ各方面ニ於テ熱望シ居ル模様ナリ

本信寫送附先 代理公使

上海 天津 南京

(欄外記入二)

天津米電ニ依レハ沿岸貿易稅以外輸入稅ニ付テモ本件弁法行  
ハレ居レリ

(欄外記入二)

沿岸貿易稅ハ原則トシテ到着港ニ於テ徵收スルモ、不開港地  
ヨリ開港地ニ移出スル貨物ノ沿岸貿易稅ハ最初ノ開港地ニ於

貴電ハ公第六九五号ニ閑シ

公第二九〇號 至急

テ徵收スル規定アリ

(欄外記入三)

天津米電ニ依レハ沿岸貿易稅以外輸入稅ニ付テモ本件弁法行  
ハレ居レリ

外交團抗議文に關し大勢に順応して対処方訓令

636 昭和5年7月3日 在中國矢野公使館書記官より

幣原外務大臣宛(電報)

外交團抗議文の南北双方へ通報について

北平 7月3日前發  
本省 7月3日後着

第四九五號(至急)  
往電第四八一號ニ閑シ

米國側ヨリ本件案文ニ異存無キ旨申出タルニ付七月一日附  
テ以テ南京ニ對シテハ英國無線ヲ利用シ發電シ闇ニ對シテ  
ハ外交處ニ手交セリ

尙南京宛ノ分第四節冒頭ノFurtherヲ省ケリ  
上海、南京、天津、漢口、廣東、青島、芝罘、南京へ轉電  
セリ

天津ニ轉電シ訓令トシテ北平ニ轉電セリ

638

南京ニ轉電アリタシ

昭和5年7月9日 在中國重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長の訓令によるとして劉弁事處員よ

りカニンガム米國總領事に外交団申入公文返

却について

上 海 7月9日後発  
本 省 7月9日後着北 平 7月9日後発  
本 省 7月9日後着

## 公第七二二號

本官發北平宛電報公第八號ニ關シ(天津海關問題)

首席公使公文ハ「カニンガム」ヨリ駐滬辦事處ヲ通シ王部長ニ送付セラレタル處七日劉辨事處員「カ」ヲ來訪シ米國總領事ヨリ首席公使ノ公文ヲ送付越セルハ何等力ノ誤ナルヘシト思ハルニ付一應返却スヘキ旨王部長ヨリ訓令ニ接シタリトテ公文ヲ返却セムトセルニ付「カ」ハ受取ヲ拒否セルニ拘ラス劉ハ其ノ轟机上ニ置キテ立チ去レル趣ニテ右ノ次第ハ早速「カ」ヨリ首席公使ニ電報セル由

北平、天津、奉天、南京へ轉電セリ

639

昭和5年7月9日 在中國矢野公使館書記官より

幣原外務大臣宛(電報)

太原會議における妥協案拒否の事情などに關する朱外交處長との会談につき矢野書記官報告

第五一二號(至急、極秘)  
往電公第一號ニ關シ

本官發上海宛電報公第六號ノ一

(一) 七日午后朱鶴翔歸平セルニ付八日午前訪シ海關問題ニ關スル太原ノ模様ヲ尋ネタル處朱ハ甚タ遺憾乍ラ太原ノ會議ノ結果ハ不首尾ナリキト前提シ本件ニ關シテハ閻錫山ハ當初出來得ル限り忍耐シタルモ南京側ニテ妥協ノ態度ヲ執ラサリシ爲遂ニ先般ノ措置ニ出テタル次第ナルニ鑑ミ其ノ結果何等問題起ルモ右ハ全然南京側ノ責任ニテ山西側トシテ何等責任ヲ負フヘキ筋合ニアラス從テ本件妥協案ノ如キハ之ヲ考慮スルノ餘地無シトノ意見ナリト述ヘタルヲ以テ本官ハ然ラハ本件日英兩國公使間ノ妥協案ニ對シ何等ノ考慮ヲ拂ハストノ趣旨ナリヤト反問セル

ニ朱ハ貴官限リノ極秘ノ話ナルカ自分力太原ニテ承知セル所ニ依レハ本件ノ裏面ニハ種々複雜ナル行懸アリ實ハ(イ)從來閻ハ天津葛海關監督ノ義父ト親交ノ間柄ニアル關係上頗ル葛ヲ信認シ居タル處葛ニハ兄弟二名アリ一ハ前青島市長葛敬恩他ハ南京總司令部ノ要職ニアリ二名トモ南京側ノ人物ナルカ今般取調ヘタル所ニ依レハ葛ハ右二人ヲ通シテ疾ニ南京ニ買收セラレ居タルモノニテ南京側ト密接ナル電信文書ノ往復アリシノミナラス在太原奉天代表ヨリ洩レタル情報ニ依レハ葛ハ在奉天方本仁ヲ通シテ南京側ト密接ナル文通ヲ爲シ居タル由ニテ謂ハハ葛ハ南京ノ間者ナルコト判明セリ而シテ今回ノ妥協案ハ天津海關接收ノ當時葛力恐ラク南京側ノ旨ヲ含ミテ天津英國總領事ニ持出セル案(大臣宛往電第四五五號ノ一ノ三末段)ヲ基礎トセルモノニテ(往電第四六(〇)號ノ三參照)閻ハウマウマト葛ニ出シ拔カレ居タル譯ナリ依テ葛ハ葛ヲ太原ニ招致シ既ニ之ヲ免職シ後任ニ陸近禮ヲ任命濟ナリ

本官發上海宛電報  
公第六號ノ二

尙四日「ベル」カ稅關俱樂部ニ舊稅關員ヲ集メ稅關乘取りヲ策シタル事實アリタルニ付閻ハ直ニ天津警備司令部ニ對シ埠頭ノ行政ヲ亂ササル範圍ニ於テ右乘取り措置ヲ適當阻止スヘキ旨ヲ電命シタルカ斯ノ如ク「メイズ」ノ任命セルモノハ不都合ノ處爲多ク又山西側トシテハケル葛スラモ前述ノ如キ始末ナルニ顧ミ山西側トシテハ妥協案ニ依リ南京側ヨリ任命セラルヘキ南方代表者ニ對シテモ全ク信用出來サル次第ナリ

(ロ) 次ニ五步正稅以外ノ稅收ニ關シテハ南京側ニテ直接内債債權者ニ拂戾スヘシトナシ居ルモ事實ハ大イニ然ラス從來南京側ニテハ例ヘハ二千萬元ノ公債ヲ發行スル場合銀行ヲシテ千萬元位ニテ之ヲ引受ケシメ之力擔保ニハ悉ク關稅收入ノ新增徵部分ヲ充ツト言フカ如キ方法ヲ採リ居リ眞ノ發行額ハ幾何ナリヤ又一般民間ニハ幾何位出テ居レリヤ等判明セス旁南京側ニテ之ヲ軍費ニ流用セスト言フカ如キハ人ヲ欺クモ甚シ山西側ニテ本件解決ヲ左迄モノナルニ反シ南京側カ解決ヲ急クハ取りモ直サス前記ノ方法ニテ軍費ヲ捻出セントシツツアルヲ示スモノニ外

ナラス依テ目下山西側ニテハ上海へ人ヲ派シ右民間ニ出  
テタル額乃至銀行引受額ヲ調査中ナリ閻トシテハ曩ニ四  
月一日以後ノ内債ハ認メサル旨聲明セルモ新政府成立ノ  
上ハ右調査ノ結果ヲ待テ事實民間ノ所有スル額ハ全然之  
ヲ認メサル譯ニモ行カサルヘク又銀行ニ對シテモ其ノ引  
受ヲ全然認メサレハ上海銀行ハ悉ク倒壊スヘキニ鑑ミ對  
内外信用上現實ニ據出セル金額ニ付テハ之力償還方モ考  
慮シ居ル次第ナリ何レニシテモ南京側力新增徵部分ヲ全  
然軍費ニ用ヒスト稱スルニ對シテハ全然信用シ難キ次第  
ナリ要スルニ右様ノ事情ニテ山西側トシテハ今回ノ妥協  
案ハ考慮ノ餘地ナシトノ意見ナリ

<sup>(3)</sup> 本官發上海宛電報公第六號ノ三

太原ニ於テハ本件ニ關シ前後五回會議ヲ開キ其ノ際閻自ラ  
議長トナリタルカ自分ヨリハ貴官其ノ他ヨリ得タル情報ヲ  
詳細ニ亘リ披露シテ極力南北妥協ノ得策ナルヲ力説セルモ  
遂ニ會議ノ贊成スル所トナラス結局新政府近キ將來ニ成立  
スヘク且ツ天津以外青島、漢口、芝罘ニモ天津ト同様ノ問  
題起ルヘキニ付之等ヲ一括シテ新政府ニ於テ萬事ヲ然ルヘ  
ク處理スルニ議一決シタル次第ナリ

<sup>(4)</sup> 本官發上海宛電報公第六號ノ四

尙會議ノ席上自分ハ山西側ニテ增徵部分ヲ軍費ニ用ヒスト  
言フコトハ自分ヨリ外國ニ聲明シタル關係モアリ萬一事實  
カ之ニ反スルカ如キコトアラハ自分ハ辭職スヘント申出テ  
置キタルカ閻ニハ當初ヨリ右流用ノ意思毛頭ナク現ニ天津  
(天津宛往電第六號) 閻ハ一笑ニ附シ居タリ又閻ニ於テハ  
内外商民ノ苦痛モ充分考慮シ居リ成ルヘク速ニ之カ救濟ヲ  
計ルノ希望アリ現ニ二重課稅ニ付テモ外國商ノ蒙ムルヘキ  
打擊ニ同情シ之カ爲損害ヲ受ケタルモノニ對シテハ新政府  
樹立ノ後右等外商ヨリ各當該官憲ヲ經テ實損額ヲ提示セハ  
之ニ對シテハ新政府ニ於テ責ヲ負フコトトスヘシト述ヘ居  
タル有様ニテ要スルニ公平且寛大ナル考ヲ有シ居レリ現ニ  
自分ヨリ閻ニ對シ日本政府ノ公正ナル態度及貴官ノ種々ノ  
論議ヲ説明セルニ閻ハ頗ル困惑ノ態ニ見受ケラレタルカ前  
述ノ如キ機微ノ點モアリ閻カ周圍ノモノ殊ニ財政顧問鈕永  
健(前江蘇省政府主席) 等ノ連中ハ盛ニ南京側ノ不都合ヲ  
鳴シ妥協ノ必要ナキ旨ヲ力説シタル爲結局絞上ノ如キ決議  
トナリタリト説明セリ

<sup>(5)</sup> 本官發上海宛電報公第六號ノ四

右ニ對シ本官ハ太原ノ雲行カ妥協案受諾ニ傾カサルハ眞ニ  
遺憾ナリトテ前回ノ論ヲ繰返シ(往電公第一號)更ニ現在  
支那ノ對外信用ナルモノハ著シク毀損セラレタル様觀察セ  
ラレ現ニ支那ノ狀態ノ極メテ不安定ナルコトハ英國議會ニ  
於テモ問題トナリ居リ之ニハ幾多ノ原因アルヘキモ要スル  
ニ支那カ對外的ニ經濟的信義ヲ維持スル根本組織タル海關  
制度ノ破壞力主因ナリ忌憚ナク言ヘハ現在外人中ニハ支  
那ノ現狀ノ北伐當時ト異リ全く軍閥相互間ノ争ト化シ之等  
軍閥ハ對外信用、一般支那民衆乃至外國商民等ヲ眼中ニ置  
カス自己ノ利益ノミヲ計リツツアリトナシ今回閻カ其ノ原  
因ノ如何ニ拘ハラス海關制度ニ對シテ極端ノ措置ヲ取り中  
外ニ至大ノ迷惑ヲ蒙ラシメ居ル事實ヲ擧クモノアリ故ニ  
閻トシテハ今回ノ内亂力軍閥黨争ニアラスシテ閻ハ支那ノ  
統一和平ノ爲支那全國民ノ爲將又對外信用維持ノ爲活動シ  
ツツアル次第ヲ天下ニ示ス目的ヲ以テ大局上ノ觀察ヲ下シ  
天津ノ問題ノ如キハ急速解決ノ要アリト思ハル貴處長只今  
ノ御説ニ依レハ閻ハ新政府樹立ノ後ニ本件ヲ擧ケテ財政當  
局ニ委スルノ方針ノ如キモ假ニ斯ノ如クナル場合ニモ最後  
ノ決定ハ依然閻ノ手中ニアルノミナラス閻ハ稅收ヲ軍費ニ

用ヒス又商民ノ苦痛ニ對シテモ充分考慮中トノコトニモア  
リ冀クハ新政府樹立前ニ之ヲ解決セラルコト閻自身ハ固  
ヨリ支那並ニ外國商民ノ爲ニモ極メテ必要ナリ況シヤ新政  
府成立後ノ對外關係ヲ考フルニ於テ更ニ然リ等ノ論點ヲ二  
時間ニ亘リ詳細申入レタル上

<sup>(6)</sup> 本官發上海宛電報

公第六號ノ五(至急、極秘)

此ノ際今一應閻ノ再考ヲ求ムル爲左ノ三點即チ<sup>(一)(二)(三)</sup>本件ノ急速  
解決ハ支那ノ對外信用ノ鍵タル海關制度保全、各國貿易  
上ノ障礙排除等ノ點ヨリ極メテ緊要ナルコト(本官所述ノ  
諸點ノ理由ヲモ舉クルコト)

二、閻ニ於テ大局ニ意ヲ注ギ將來ノ立場ヲ良クスル希望ア  
ラハ新政府樹立前妥協ノ絕對必要ナルコト

三、之ハ全然本官個人ノ意見ナルカ妥協案ノ各點中人又ハ  
稅收等ノ小問題ニ付論議ノ必要アラハ南北双方ヨリ代表者  
ヲ出シテ詳細ノ點ヲ打合ハシムルコト

ニ付急電ヲ發シ本件ニ付閻ノ慎重ナル再考ヲ求メラレタシ  
ト求メタル處朱ハ之ヲ承諾スルト共ニ尙自分ノ立場モ諒解  
アリタシトテ實ハ本件ニ關シテハ既ニ詳細貴官ノ意見ヲ太

原ニ電報シ尙太原會議ノ際充分貴官ノ所論ノ正當ナルコト及妥協ノ大局上望マシキ次第ヲ懇々説明セルモ遂ニ否決サレ真ニ遺憾ナルカ今貴需ニ依リ太原ニ電報スルモ太原ノ意見ハ頗ル强硬ナレハ自分ノ意見力採用セラルコトニハ多大ノ疑アルノミナラス場合ニ依リテハ自分ノ貴官ニ對スル説明振り拙劣ナリトテ叱責ヲ蒙ムルヤモ知レサルニ付此ノ點充分了解アリタント述ヘタリ

<sup>(6)</sup>本官發上海宛電報 公第六號ノ六（至急、極秘）

尙會談中朱ハ太原會議ニ於テ自分ハ將來青島等ニ於テ本件同様ノ問題再發スルニ於テハ極メテ困難ナル事態ヲ招來スヘキニ付成ルヘク起ササル様シタント提言セルニ太原側モ天津ニ關シ一旦閻ノ命令發出以來面子保持ニ苦シミタルト外國側ノ喧シキ論議モアリ事面倒ナルニ付成ルヘク斯ルコトハ起ササル様スヘシトノ意見ナリシカ如シト述ヘ居タリ<sup>(2)</sup>山西側黨部方面有力者ニ對シテモ我方ノ意図ヲ充分徹底セシメ置クコト有益ナリト認メ八日趙丕廉ト會食ノ際差支ヘナキ範圍ニ於テ前記朱（ニ）對スルト同様ノ話ヲ反覆說明セルニ趙ハ之ニ動キ右ノ次第八早速閻ニ電報スヘク只闇ハ目下急速政府ヲ組織ニ盡力中ニ付恐ラク此ノ際直クニ

見ハ頗ル強硬ナレハ自分ノ意見力採用セラルコトニハ多大ノ疑アルノミナラス場合ニ依リテハ自分ノ貴官ニ對スル前ニテ應酬スルコト然ル可シト思考スルニ付右ノ趣旨ニテ

ハ妥協案ニ贊同セサルヘシト思ハルモ若シ政府成立セハ直ニ政府當局ニ解決ヲ委スヘク假リニ成立セサル場合ニハ南北代表會合ノ案ヲ考量スヘキカト認メラル兎ニ角貴説ノ次第ハ早速閻ニ傳フヘシト答ヘタリ

<sup>(7)</sup>本官發上海宛電報

## 公第六號ノ七

八日大橋ヲシテ「タイチマン」ヲ往訪貴電公第一二號及第一三號ノ電文寫ヲ手交セシメタル處「タ」ヨリハ貴電公第一四號ノ電文寫ヲ大橋ニ渡シタル由ナルカ其ノ際「タ」ハ「ラ」公使ハ元來斯ノ如キ支那人間ノ爭ニ直接關與スルヲ好マサルモ英國ノ通商上ノ利益ヲ擁護スル見地ヨリ妥協ノ細目ニ關スル兩者交渉ノ「バックグラウンド」ヲ作リヤル意味ニテ個人的ニ妥協スルコトヲ提示シタルモノニシテ從テ日英ト山西側トノ交渉ト併行シテ直接當事者間ニ此ノ種交渉進行スルモ差支ナシトノ意見ヲ有シ居ル所朱鶴翔モ昨日歸平シタルニ付本件ニ關スル閻ノ回答振ヲ聽取シタル上今後ノ對策ニ關シ改メテ日本側ト打合度旨語リタル趣ナルカ「タ」ハ八日午後豫メ本官ト打合セヲ遂ケタル上即刻朱ニ會見シタル筈ニ付九日本官英國公使ヲ往訪シ本件ノ對策

ニ付協議ヲ遂ケ更ニ何分ノ儀申進スヘシ  
大臣、南京、天津、奉天ニ轉電セリ

編注 以下の部分は北平より七月十四日發同十五日着。

640 昭和5年7月10日 常原外務大臣より  
在中国矢野公使館書記官宛（電報）

外交團抗議文は利害關係國を代表してオランダ公使より發送されたものとして中國側に対  
処方訓令

本省 7月10日後5時発

第一二六號 至急  
在支公使發貴官宛公第八號ニ關シ

本件申入ハ「インテレステッド、コリーグス」ノ爲ニ「オランダ」公使ヨリ發送セラレ居リ外交團ヲ代表シタル意味

ニ非ス現ニ此種利害關係國ヲ代表シテノ申入ニシテ最近ニ至ルマテ南京政府ニ受入レラレサリシ實例無シ從ツテ支那

側今回ノ措置ハ誤解ニ基クモノト云フヘク少クトモ其ノ立前ニテ應酬スルコト然ル可シト思考スルニ付右ノ趣旨ニテ

上海宛往電公第一〇號ニ關シ  
一、本件妥協案受諾勸告方ニ關シ種々努力ヲ試ミタルモ目下ノ處成功ノ見込少ク遺憾ニ堪ヘサル次第ナリ本官トシテハ重光代理公使宛屢次拙電ノ通此ノ際差當リノ措置トシテ兎角逃ケ腰ナル英國ヲ捉ヘテ閻ヲシテ問題打切りト爲スカ如キコトナキ様現ニ其ノ再考ヲ促シ居ル次第ナルカ朱ノ口吻ヨリ察スルニ直ニ其ノ成功ヲ望ミ得サルカ如シ此ノ際館員ヲ太原ニ派シ閻ニ會見シテ勸説ニ努メシムルモ一案ナルヘキモ「ラ」公使ノ意見ニ鑑ミ英國ヲ引込ムコトハ困難ナ

ルへク此ノ外ノ方策トシテハ北方側ヲ強制スル目的ニテ天津ニ於テ領事館供託制度ヲ實行スルコト一案ナルモ之亦現同地税關カ曲リナリニモ運轉シ居リ各國商人力同關ニテ手續ヲ爲シ居ル此ノ際外國側カ我方主張ニ合流シ來ルコトアリ結局差當リ閻ニ強ク再考ヲ求ムルコト以外ニ名案見當リ難キカ如シ

二、一面本件全般ニ對スル英國ノ態度ヲ見ルニ當初ヨリ何ト無ク氣乗リ薄ニテ我方鞭撻ニ依リ漸ク活動ヲ繼續シ來リタル感アル處今後我方ニテ新ニ何等カノ方法ニ出ツルトルモ果シテ之ニ追隨シ來ルヘキヤ疑ヒ無能ハス  
假ニ追隨スルコトアリトスルモ同國ハ内心本件ニ付當初ヨリ支那側ヨリ恨ヲ買ヒ板挾ミトナリタル苦境カ日本側ノ積極的活動ニ依リ幾分緩和サレタリトシ内心息付キタルヤニ見受ケラル如ク之ニ對シ表面ハ兎ニ角内實ニ於テ何レ丈ケノ誠意ヲ期待シ得ヘキヤ疑問ナリ從テ本件ヲ何等カノ方法ニ依リ更ニ「プツシユ」セントセハ我方單獨ニテ邁進スルノ覺悟ヲ要スヘキ處山西側ハ濟南陥落シテ日本ニ對スル

上海、南京、天津、奉天ニ轉電セリ

642 昭和5年7月12日 在天津田尻總領事代理より  
常原外務大臣宛（電報）

陸新天津海關監督の就任挨拶について

天津 7月12日後発  
本省 7月13日前着

第三五號

陸近禮ハ十一日天津海關監督並ニ常關稅務司ノ事務引續ヲ受ケ就任挨拶ノ爲十二日來訪シタルカ右ノ談話中御参考ト

ナルヘキ點左ノ通

(一)前任葛監督ハ落度アリテ免職セラレタルニ非ス單ニ轉任セルノミニシテ近ク太原ニ赴キ總司令部高級文官（四名ヨリナリ財政外交其ノ他重要ナル行政ヲ主辨ス）ニ就任スル筈ナリ

(二)閻錫山ハ天津稅關問題ニ關シ元來平和ヲ希望シ來タレルモ南京側今次ノ遣リ口ニハ非常ニ不満ヲ懷キ且目下軍事方面ノ形勢北方側ニ有利ニ進展シツツアルヲ以テ今更此

ノ儘ニテハ妥協スル意図ナキカ如シ

氣兼モ稍薄ラキ天津稅關モ次第ニ常態ニ復シテ此ノ方面ノ懸念モ去リ且外國ヲ恐レサル改組派ノ連中ノ口添モ加ハラントスル今日單ナル言葉ノミニテ此ノ上何レ程説明ヲ試ムルモ成功ヲ期待スルコト頗ル困難ナルヤニ思考ス

三、而シテ我方力之以上深入リシテ尙不成功ナルニ於テ我方ノ威信ニ關スルハ勿論武器問題ニ關シ相當面白カラサル山西側ノ空氣ヲ一層惡化セシメ禍根ヲ將來ニ貽ス惧ナントセサルヲ以テ相當ノ注意ヲ要スル次第ナルカ他面政府ニ於テ最モ重要視セラル海關制度保全ノ爲將又現狀ニ於テ邦商ノ蒙リ居ル不便ヲ除去スル爲萬般ノ努力ヲ試ミ圓滿妥協ヲ策スルノ必要アルハ勿論ナリ就テハ前記諸點ニ付篤ト御考慮ヲ加ヘラレ今後本官ノ執ルヘキ態度並措置ニ付何分ノ儀至急御回電アリタシ

尙本件妥協斡旋ト並行シ現在ノ貿易上ノ不便除去ノ爲重光代理公使カ南京側當局ト密接ノ聯絡ヲ保持セラル外天津其ノ他關係各港ニ於ケル領事等ヲシテ適宜各現地當局ト接洽シ可然措置セシメラルコト必要ナルヘク右ハ現ニ實行中ナルモ南北妥協ノ困難著シク增加シタル今日特ニ其ノ必要ヲ感スルニ至リタル次第ニ付爲念申添フ

643 昭和5年7月16日 常原外務大臣より  
在中国矢野公使館書記官宛（電報）

英國公使とともに閻の再考說得方訓令

本省 7月16日後5時発

第一三三號

貴電第五一九号ニ關シ

山西側ノ形勢好轉ノ今日日英トシテハ暫ク事態ノ變化ヲ見ルノ外ナカルヘント思考セラルモ左リトテ放任スル譯ニモ行カサルヲ以テ此ノ際ノ措置トシテハ貴見ノ通問題打切ト為ساس閻ノ再考ヲ求ムルコト時宜ニ適スト認メラルニ付貴官ハ右ノ趣旨ニテ英國公使ト提携ノ上可然御措置アリ

タシ

上海、南京、奉天、天津ニ轉電セリ

（往電第五二四號天津へ暗送セリ）

644 昭和5年7月18日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛（電報）

外交団抗議文首席公使より王外交部長へ直接

郵送について

北平 7月18日後発

本省 7月21日前着

第五四二號（至急）

往電第五二四號ニ關シ

十八日首席公使ヨリ本件公文（内容同一）ヲ十五日附ヲ以テ北戴河ヨリ直接王正廷ニ郵送セル旨同章ヲ以テ通知越セリ

右ニ關シ十八日和蘭公使館書記官ハ館員ニ對シ本件ハ和蘭公使カ「インテレスステツド、コリーグス」ヲ代表シ公文ヲ南京政府ヘ送付スル手續ニ付支那側ニ誤解アリタルノミニ未タ公文其ノモノノ受付ケヲ拒絶セル次第ニハ非ス一面此ノ際支那側ノ誤解ヲ云爲スルハ事態ヲ紛糾セシムル虞アルノミナラス事緊急ヲ要スルニ鑑ミ和蘭公使ハ此ノ際更メ

テ關係國ニ相談セス單獨ノ意思ニテ前記ノ通取計タル次第ナリト内話セル趣ナリ

（往電第五二四號天津へ暗送セリ）  
上海、南京、天津へ轉電セリ

645 昭和5年8月20日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長による外交団抗議文再返却に対する  
首席公使より発送予定の抗議文について

第六一五號（至急）

往電第五二四號ニ關シ

今回首席公使ヨリ王正廷ハ同公使ニ對シ八月八日附私信ヲ以テ既ニ公表セル通ノ理由ニ依リ本件公文ヲ受領シ得ストシ再ヒ返送シ來レル處同公使ハ右ニ對シ大要左記趣旨ノ同答文ヲ八月廿五日發送シ度ニ付各關係國代表ノ意見至急承知シ度キ旨同章シ越セリ

余ハ公表セラレタル理由ナルモノヲ承知セサル處同僚及自

了セラレタリト推知スルカ故ニ右公文ヲ再ヒ送致セサルコトトスヘシ  
上海、南京、天津ニ轉電セリ

646 昭和5年8月22日 在中國矢野公使館書記官宛（電報）

首席公使の抗議文を外交団各別に発送について  
ては一考を要する旨訓令

本省 8月22日後6時発

第一四九號

貴電第六一六号ニ閲シ

十七日附ノ公文ハ自分カ外交團首席トシテ書キタルモノニアラス上海稅關當局カ條約ノ規定ニ反シ關稅ヲ徵收シ始メタル際本問題ニ直接關係ヲ有スル諸國ノ代表中ノ先任者ノ資格ニ於テ認メタルモノニシテ數ヶ國ノ條約或ハ利害力同時ニ關與スル場合ニ其ノ外交代表中ノ一名カ他ヲ代表シテ發言スルハ代表全部カ同一書簡ニ署名スルニ比シ（尤同僚及自分トシテハ何レノ方法ニ依ルモ差支ナカルヘキモ）一層簡單ナルハ明白ナリ

現在ノ場合ニアリテハ貴方ニ於テハ七月十五日ノ公文ヲ讀

然御措置アリタン  
向ヲモ徵シ尙ホ研究ノ要アリト思考スルニ付右御含ノ上可

上海ヨリ南京ニ轉電アリタシ

上海、天津ニ轉電セリ

天津ニ轉電セリ

## 第六五七號

本官發上海宛電報公第二八號ノ一

天津宛貴電公第四號ニ關シ

昭和5年9月1日 常原外務大臣より  
在中國矢野公使館書記官宛（電報）

## 首席公使回答文案承諾の旨訓令

本省 9月1日後3時12分発

第一五六號

貴電第六四五號末段ニ関シ

別ニ異存無シ

上海ヨリ南京ニ轉電アリタシ

上海、天津ニ轉電セリ

648 昭和5年9月(5)日 在中國矢野公使館書記官より  
幣原外務大臣宛（電報）

山西側政府成立以前に南北妥協計るべく朱外

## 交處長に督促につき重光宛報告

北平 発  
本省 9月5日後着

公第二八號ノ二

新政府モ茲一二週間中ニハ必ス成立シ財政部長モ決定スヘキニ付其ノ際更ニ交渉ヲ繼續サルルノ外ナカルヘシ最近二

649 東北軍の天津制圧に伴う天津海關の状況につ  
き報告

三案件ニ付閻司令ノ決裁ヲ電請シタル處何レモ新政府ヲシテ取扱ハシムヘキニ付夫レ迄待ツヘキ様回訓アリタルニ付今本件ニ付請訓スルモ恐らく同様ノ結果ニ終ルヘシト答へ要領ヲ得サリン趣ナリ

事情右ノ如ク此ノ際英國ト協同シテ更ニ強ク「プツシユ」

スルモ今日ノ所妥協ニ應セシムル事殆ト不可能ニ近シト認メラル尙四日「エブリング」ノ館員ニ語ル所ニ依レハ「エ」ヨリ「イングラム」ノ申出ヲ「ラ」公使ニ傳ヘタル處同公使ヨリ曩ニ閻錫山ヨリ丁ニ對シ「メーズ」ニ對シテ別ニ惡感ヲ有セサルヲ以テ新政府成立ノ上ハ同人ヲ雇傭スルコトアルヘキモ其ノ申出ニ對シテハ遺憾乍ラ絕對ニ應シ難キ旨ノ強キ回答アリタルニ鑑ミ之ヲ今更山西側ニ「プツシユ」スルモ何等ノ效果無キノミナラス北方ノ敗戦ヲ機會ニ之ヲ申入レントスル考ニハ絕對反対ナリトノ意図ヲ申越セル趣ナリ

大臣、南京、天津ニ轉電セリ

在天津田尻総領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

649 昭和5年9月21日

ル由ナル處「シ」ノ處分問題ニ關スル王正廷ノ意向ニ就テ  
ハ上海發電報公第九〇九號ノ次第アルモ奉天側來駐後ニ於  
テ而モ南京ニ對シ好意的態度ヲ持續スル限りハ王ノ態度モ  
自ラ硬化シ英國側トシテモ「シ」ノ引退ヲ勸告スルノ已ム  
ナキニ至ルヤニ想像セラルルニ就テハ今後ノ時局ノ發展ハ  
遽ニ豫斷ヲ許サスト雖モ此ノ際若シ岸本ノ任命ヲ希望セラ  
ルルニ於テハ早目ニ話ヲ進ムルコト然ルヘキヤニ認メラル  
モ現稅關ノ徵收ニ係ル關稅特ニ附加稅ノ後始末ニ關スル  
「メ」ノ意向ハ豫メ確メ置ク要アルヘシ「グリアソン」ハ  
「メ」ニ對シ請訓中ナルモ廿日迄何等指圖ニ接セサル由ナ  
リ

上海、奉天、北平、南京ニ轉電セリ

650 昭和5年9月22日

在天津田尻總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津海關問題に対する奉天側の意向に關しシ  
ノブソン、グリアソンおよびピールとの会談  
要旨報告

ナキニ至ルヤニ想像セラルルニ就テハ今後ノ時局ノ發展ハ  
遽ニ豫斷ヲ許サスト雖モ此ノ際若シ岸本ノ任命ヲ希望セラ  
ルルニ於テハ早目ニ話ヲ進ムルコト然ルヘキヤニ認メラル  
モ現稅關ノ徵收ニ係ル關稅特ニ附加稅ノ後始末ニ關スル  
「メ」ノ意向ハ豫メ確メ置ク要アルヘシ「グリアソン」ハ  
「メ」ニ對シ請訓中ナルモ廿日迄何等指圖ニ接セサル由ナ  
リ

上海、奉天、北平、南京ニ轉電セリ

ル由ナル處「シ」ノ處分問題ニ關スル王正廷ノ意向ニ就テ  
ハ上海發電報公第九〇九號ノ次第アルモ奉天側來駐後ニ於  
テ而モ南京ニ對シ好意的態度ヲ持續スル限りハ王ノ態度モ  
自ラ硬化シ英國側トシテモ「シ」ノ引退ヲ勸告スルノ已ム  
ナキニ至ルヤニ想像セラルルニ就テハ今後ノ時局ノ發展ハ  
遽ニ豫斷ヲ許サスト雖モ此ノ際若シ岸本ノ任命ヲ希望セラ  
ルルニ於テハ早目ニ話ヲ進ムルコト然ルヘキヤニ認メラル  
モ現稅關ノ徵收ニ係ル關稅特ニ附加稅ノ後始末ニ關スル  
「メ」ノ意向ハ豫メ確メ置ク要アルヘシ「グリアソン」ハ  
「メ」ニ對シ請訓中ナルモ廿日迄何等指圖ニ接セサル由ナ  
リ

上海、奉天、北平、南京ニ轉電セリ

往電第四二九號及往電第四三一號ニ關シ

天津 9月22日後發  
本省 9月22日後着

## 第四三三號

(一)廿二日「シンプソン」カ後藤ニ語リタル處ニ依レハ「グ  
リアソン」ハ本朝稅關俱樂部ニ舊稅關吏ヲ招集シ津海關  
回収ニ關シ何事カ訓達シタル趣ナルモ自分ハ南京政府從  
テ上海總稅務司ヲ認ムル能ハサルニ付「グ」カ「メーズ」  
ノ命ヲ奉シ直接回収ヲ計ルモ直ニ之ニ應スル意思ナシ但  
シ河北省政府主席決定ノ上主席ヨリ正式ニ引渡ヲ命シ來  
ルニ於テハ平穩ニ明渡スノ外ナカルヘク夫レ迄ハ他ノ何  
人ノ委任ヲ以テ要求シ來ルモ斷然拒絶スル所存ナリ尙隣  
海平漢方面ノ戰況モ良好ニ展開シ居レハ張學良ハ必スシ  
モ南京側ニ偏セリト見ル能ハス且下本件ニ關シ學良ニ意  
見電照中云々ト

(二)廿二日「グリアソン」及「ピール」トノ會見ノ模様左ノ  
通  
先ツ「グ」ノ内話トシテ「メーズ」ヨリ奉天側ノ同意ヲ  
得其ノ援助ニ信賴シ得ルニ於テハ成ルヘク速ニ當地稅關  
尙本官ノ問ニ對シ「グ」等ハ萬一學良ニシテ現狀ノ儘稅  
關ヲ放置スル方針ナルニ於テハ右ハ或ハ關內出兵ニ關シ  
學良ト南京側トノ了解ニ基クモノトモ認メラレ致方ナキ  
次第二付傍観スルノ外ナキ旨ヲ答へ又「シ」カ過去ノ關  
係ヲ利用シ學良ノ抱込ヲ劃策スル惧アルヲ懸念シ居タリ  
因ニ當地租界ニ於テハ稅關回収ハ已ムヲ得ストシ諦メ居  
レリ

(三)尙「ピール」ノ談ニ依レハ常關ハ必スシモ閉鎖スル要ナ  
カリシモ山西側ニ對スル示威運動トシテ閉鎖セシ事情ア  
リテ今日迄ニ南京側ノ手ニ依リ再開シ何等不都合ナカリ  
シ處陸海關監督ハ奉天軍ノ來津ニ恐ラ抱キ突如接收方申  
出アリシヲ以テ二十一日回収再開ニ取計ヒタル趣ナリ  
(陸ハ逸早ク租界ニ避難セル一人ナリ)

上海ヨリ南京ニ轉電アリタシ

北平、奉天、上海、青島、南京ニ轉電セリ

ニ對シ南京側稅關再開ニ付援助爲スヘキ旨命令セシメタ  
ル上之ヲ佛國領事ニ通告シ其ノ協助ヲ求メ「シ」ノ立退  
ヲ要求セシムル方針ニテ此ノ手續ヲ履ムトキハ「シ」モ  
明渡ス意向アル模様ナリ

右ニ關シ既ニ佛國側ノ了解ヲ得又蔣主席ノ右様「ステー  
トメント」發表方ニ付何分ノ援助ヲ求メタルニ對シ英國  
總領事ノ内意ヲ得タルニ付（米國事勿レ主義ニテ相手ニ  
ナラストノコトナリ）日本側ヨリモ同様後援ヲ得度シト  
ノ趣ナリシヲ以テ稅關問題ニ限ラス時局全般ニ對スル學  
良ノ眞意ヲ探査スルコト肝要ナル旨ヲ述ヘ可然應酬シ置

張學良との会談を口実に我が方の援助を得て現地位保持せんとのシンプソンの言動について

天津 9月30日後発  
本省 10月1日前着

第四四九號(極秘)  
件電第四四一號ニ關シ

(一)二十九日「シンプソン」田尻ヲ來訪内話セル處左ノ通二十六日夜張學良ト會見シタルカ奉天側トシテハ一般政局ノ安定ヲ計ルニ止リ稅關問題ニハ全ク關與セサル方針ニ付天津海關ノ將來ニ關シ意見ヲ述フルヲ得ス殊ニ「シ」ノ就任ハ閻錫山ノ任命ニ係ルヲ以テ閻ノ指示ヲ受クルカ當然ナルヘキ處閻ヨリ「シ」ニ對シ何等指示ナキハ何故ナリヤトノ學良ノ言分ナリシニ付之ニ對シ自分「シ」ヨリ閻ハ山西側各機關ニ對シ正式引渡迄執務スヘキ旨一般的ニ命令シタルモ既ニ奉天ノ權下ニアル以上學良ノ命ヲ仰クコト當然ナラスヤ又學良力韓麟生ヲ海關監督ニ任命シタル理由如何等質シタル處學良ハ右會見ハ舊交ヲ温ム

(二)現稅關ノ取扱公平ニシテ事務簡捷ナルハ一般ニ認メル處ニシテ此ノ際「レジム」ノ變更ヲ迷惑トスル一例ハ九月十七日附第七六六號拙信ノ通ナルカ「シ」ノ對談ノ模様並ニ情報ヲ綜合スルニ現地位ヲ保持セソカ爲ノ「シ」ノ奉天行モ豫期ノ效果ヲ收メラレサルニ付我方ヲ引合ニ出サント<sup>記</sup>メラレ尙其ノ他諸般ノ關係ヲ考慮ノ上田尻ヨリ現稅關ノ執務振ハ薩乍ラ賞讃シ居ルヲ以テ「シ」ニ於テ一切他言セサル條件ノ下ニ右申出ハ一應傳達スヘキモ支那政局多事ノ此ノ際我政府ニ於テ斯カル措置ヲナスハ内外ニ誤解セラル惧アリ依テ恐ラク何物モ期待シ得ラレサルヘキ旨然ルヘク答ヘタル處「シ」モ能ク諒解シ單ニ傳達アルノミニテ満足ナリ海關制度及其ノ内情ニ付日本政府ノ參考トナルヘシトテ引取リタルカ「シ」ニ於テハ我方ノ援助ヲ得テアハヨクハ現地位ヲ保持シ假令然ラサル場合ニモ將來我方ニ賴ラントスル腹アルヤニ見受ケラレタル由ナリ

(三)右ニ關シ何等心得置ク事アラハ回電ヲ請フ

北平、奉天、上海へ轉電セリ

ル爲ナリト逃ヶ之等ノ點ニ關シ多クヲ語ラス裏ニ裏アル

支那人ノコトナレハ其ノ眞意ニ付諒解ニ苦シム次第ナルカ奉天側若クハ南(京)政府ニ於テ稅關ヲ回収スル場合ニハ自分トシテハ未練ナク引退スヘキモ舊稅關吏カ復職

スルコトトナレハ從来ノ通收賄ニ依ル密輸脫稅盛トナリ結局日本商人力打擊ヲ受クルコト必然ナリ自分ノ過去ニ

對シ兔角ノ批難アルモ少クトモ稅關ノ關スル限りハ公正無私ノ仕事ヲナシ一般殊ニ日本側關係者ニ於テ之ヲ認メ居ルコトハ御承知ナルヘシ尙閻ノ秘密謀報者タル副稅務司潘連如ニ對シ閻ヨリ茲四五週間内ニハ再ヒ京津地方ニ進出スヘキ見込ナル旨申越タリ(潘ハ二十九日協議ノ爲石家庄ニ向ヘリ)事實河南方面ノ戰局ハ有利ニ展開シ居ルヲ以テ或ハ近ク政局大變動アリトモ豫想セラレ其ノ際ハ一應復職シタル舊稅關吏モ再ヒ更迭シ引繼ニ際シ不正行ハルル惧アルニ付稅關ヲ政爭ノ外ニ置キ又商民ノ苦痛ヲ輕減シ日本側貿易ノ利益ヲ計ル見地ヨリ此ノ際日本政府ニ於テ現稅關ノ功績ヲ認メ之力持續ヲ希望スル意味ヲ一言何トカ表明シ得ラレマシキヤ右日本政府ニ傳達ヲ請フ

## シンプソン狙撃され危篤について

天津 10月2日前着

第四五二號

一日午後八時頃「シンプソン」ハ自宅ニ於テ面會ヲ求メ來レル三名ノ巨漢ノ爲銃拏ニテ左腹部ニ二發狙撃セラレ生命危篤ノ趣ナリ加害者ハ四、五日以來日本租界北洋飯店ニ宿泊中ノ支那人(奉天ヨリ來レル者ト認メラル)ニシテ公然宿ヲ引拂ヒ行方不明目下英佛工部局トモ共同シ逮捕手配中不取敢

北平、奉天、上海、南京へ轉電セリ

653 昭和5年10月(2)日 在天津岡本總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

王樹常東北第二軍長による天津海關監督署な  
ど各機關の接収について

天津 発  
本省 10月2日後着

## 第四五三號

東北第二軍長河北省主席王樹常ハ代理天津市長臧敬芳、公安局長張學銘等平津各機關ノ首領二十餘名ヲ率ヒ一日午後來津シ本二日朝市政府公安局海關監督署電報局等各機關ヲ接收セリ省政府委員ハ明三日就職ノ筈尙今次奉天ヨリ帶同セル人員多カラサルヲ以テ各機關トモ當分ハ舊來ノ職員ノ地位ヲ保持シ服務セシムル由ナリ

北平、奉天、青島、濟南、上海、南京、漢口へ轉電セリ

654 昭和5年10月3日 在天津岡本總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

シンプソンの奇禍によりグリアソンが直接海

関接收の動向について

天津 10月3日前發  
本省 10月3日前着

## 第四五四號(二日後)(極秘)

往電第四五二號ニ關シ

655 昭和5年10月4日 在天津岡本總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府の命を奉じ韓麟生新海關監督および  
グリアソン税務司代理連名による天津海關再

開の布告について

天津 10月4日後發  
本省 10月4日後着

## 第四五八號

往電第四五六號ニ關シ

新任海關監督韓麟生及稅務司代理「グリアソン」連名ニテ  
十月三日附ヲ以テ本海關ハ曩ニ國民政府ノ命ニ依リ閉鎖シ  
タルカ再ヒ命令ヲ奉シ本日開關シ事務ヲ處理ス一切ノ海關  
手續ハ六月廿日以前ノ規程ニ依リ處理スヘキ旨布告シ且就  
任方通知越セリ

上海、北平、奉天へ轉電シ牛莊、安東、青島、漢口、廣東、  
芝罘、關東長官へ暗送セリ

656 昭和5年10月4日 在天津岡本總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

張學良は天津税關問題に關し中央政府による  
回収を懲懲との丁喜堂の内話について

天津 10月4日後發  
本省 10月5日前着

## 第四五九號

往電第四四八號及第四五六號ニ關シ

其ノ後丁喜堂ハ奉天ニ赴キ張學良ト協議ヲ遂ケ三日歸津シ  
タルカ四日來館館員ニ語ル處左ノ通

(一)「シンプソン」ハ當地關稅收入ヲ餌ニ學良抱込運動ヲ爲

「グリアソン」ヨリ田尻ヘノ電話ニ依レハ明三日朝稅關回  
收スル筈ナリトノ趣ナルカ情報ヲ綜合スルニ「シンプソン」  
ノ奇禍ニ依リ局面急轉シ河北省政府主席王樹常ノ就任ヲ見  
サルニ不拘直接ニ「グ」ニ於テ接收シ現稅關吏モ反對ナク  
明渡スコトニ既ニ諒解成立セルモノノ如シ「シ」ハ重態ナ  
ルモ意識明瞭ナリ或ハ將來我方ニ於テ利用シ得ル人物ト考  
ヘラルニ付田尻ヨリ本邦船會社方面ニ旨ヲ含メテ見舞ハ  
シメ居ル處「シ」モ大イニ感謝シ居レリ

冒頭往電ノ通轉電セリ

シタルモ學良ハ全然相手ニナラスヌゴスゴ歸津シタルモ  
ノニテ間モナク奇禍ニ遭ヘリ

(二)學良ハ天津稅關問題ニハ一切手ヲ觸レサル覺悟ニテ改メ  
テ中央側ニ於テ速ニ之ヲ回収スヘキ事ヲ懲懲シ必要ナル  
場合ハ公安局長學銘ヲシテ援助セシムヘシトノ事ナリシ  
ヲ以テ「グリアソン」ノ希望ノ次第アリシモ(往電第四  
三三號ノ二参照)河北省政府モ全ク關係セス昨三日中央  
ノ命令ニ基キ「グ」ニ於テ韓監督ト協力シ直接稅關ヲ回  
収セリ韓ハ學良ニ於テ任命シタルモ夫レニハ中央ノ諒解  
アリ

(三)右様ノ事情ナルヲ以テ今後奉天側ニ於テ當地關稅ニ關係  
スル虞ナク海關組織ハ完全ニ統一セラレタリ  
(四)山西側稅關ヨリノ稅關收入引繼額(銀行ニ預金シアルモ  
ノ)約二百萬元ナルカ其ノ内四十萬元ハ「ベル」自身ノ  
預金ナリ尙山西側ニ於テ持去レル分ハ三百萬元見當ナル  
カ今後山西側トノ間ニ相當問題トナルヘシ  
上海、北平、奉天へ轉電セリ

657 昭和5年10月(8)日 在上海重光總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津海關三日より再開の旨上海海關告示について

いて

上 海 発  
本省 10月8日後着

第五三五號

往電公第六二九號ニ關シ

當地海關ハ十月六日附ヲ以テ天津海關ハ三日ヨリ再開セルニ付同地向及同地ヨリノ貨物ニ對スル特別手續ヲ廢止スヘキ旨告示セリ

北平、南京、天津、青島、關東廳へ轉電セリ

~~~~~

3 長沙事件

658 昭和5年7月(28)日 在漢口坂根総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

共產党軍の長沙進撃に関する何健の内話によ
り日本人婦女子避難につき長沙領事報告

漢 口 発

本省 7月28日後着

第二五四號(大至急)

長沙發本官宛電報

第七二號

往電第七一號ニ關シ

昨廿五日夜不取敢在留邦人ニ對シ警戒方ト避難準備ヲ命シ
置キタルカ更ニ詳細ノ事情聽取ノ爲本官ハ廿六日何健(健)ヲ往
訪シタルニ何ハ極秘トシテ左ノ通内話セリ

一、當初平江方面ニ於ケル共產軍ノ勢力ヲ輕視シ之カ討伐ノ爲十九日部隊三團ヲ率ヒ第十五師長危宿鐘ヲシテ同方面ニ向ハシメタル處各地ニ分散シ居タル彭德懷、黃略公、賀龍等ノ共產軍ハ平江方面ニ集中聯合シ銃器約八千總勢約二

萬ノ大部隊トナリテ進撃シ來リ危宿鐘軍ト同地附近ニ於テ衝突シ兩軍トモ多大ノ損害ヲ受ケタルカ危宿鐘軍ハ大勢非凡ヲ悟リ當方面ニ退却シ來リ共產軍ノ主力ハ長沙ヲ距ル約百支里ノ高橋方面迄進出シ來レリ

二、依テ何健(健)ハ差當リ一團ヲ治安維持ノ爲當地ニ止メ右危宿鐘ノ三團ヲ長沙附近ニ配置シテ防戰スルコトセリ一方急遽集中ヲ命セル寶慶方面ノ軍隊一團ハ既ニ湘潭ニ到着シ且廣西出動軍第十九師劉建緒部下李覺旅モ廿五日衡州ニ引揚ヶ來リ其ノ先鋒部隊ハ既ニ株州附近ニ到着セルニ付廿六日夜ニ至ラハ之等部隊ハ當地ニ到着ノ豫定ニテ他方武岡方面ニアル第六師羅藩瀛ノ部隊モ當地ニ召集中ニ付茲二三日ヲ經ハ李、羅兩部隊全部到着スヘシ尙軍艦ノ派遣方ヲ申請セリ

三、目下ノ處當地ハ大丈夫ト思考セラルモ第三國際(「インターナショナル」脱)ヨリ中國共產黨ニ對シ目下中國ノ動亂ニ乘シ之カ勢力ヲ擴大ノ命令アリ該聯合共產軍ハ八月一日ヲ期シ長沙ノ占領ヲ計畫シ居ル由ニモアリ萬一當地カ危機ニ瀕セハ豫メ直ニ通知スヘシ